

令和元年度東員町教育委員会 事務事業点検・評価報告書

令和2年7月
東員町教育委員会

目 次

	ページ
I 令和元年度点検及び評価実施方針	1
II 教育委員会の運営状況	2
III 事業の点検評価	
・教育総務課に係る主要事業	6
・学校教育課に係る主要事業	8
・社会教育課に係る主要事業	16
IV 学校（幼稚園・保育園・小学校・中学校）の評価	19
V 評価委員会の意見	20

I 令和元年度点検及び評価実施方針

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、東員町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

令和元年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検評価

第5次東員町総合計画を踏まえた2019年度東員町教育基本方針に基づき、令和元年度の教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検・評価を行う。

したがって、令和元年度の東員町教育委員会の全ての運営状況及び事務事業の執行状況について、自己点検評価を行ったものではない。

(2) 学識経験者の知見の活用

東員町の教育に関して、学識経験を有する次に掲げる学識経験者から教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、二次評価・外部評価結果として本書に記載する。

(学識経験者)

氏 名	備 考
小 林 慶 太 郎	四日市大学副学長
伊 藤 頼 子	元小学校校長
大 貫 正 博	文化協会会長

(3) 議会への報告及び公表

点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告し、ホームページへの掲載、窓口への備え付け等により公表する。

II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会

教育委員会では、5名の委員により毎月定例会議を開催し、教育基本方針をはじめ、条例・規則等の制定や教育予算など重要な案件を審議しました。また、教育委員会の重点施策について調査・研究するため、委員による教育行政視察研修を実施しました。

(1) 委員構成

令和2年3月31日 現在

氏名	住所	役職	備考
岡野 譲治	六把野新田	教育長	
向山 節雄	笹尾東2丁目	職務代理者	元学校長
三貫 納幸	城山1丁目	委員	元PTA役員
木村 陽一	大木	委員	会社員（保護者代表）
松宮 あけみ	笹尾東3丁目	委員	元養護教諭

(2) 教育委員会開催状況（定例会教育委員会・臨時教育委員会）※詳細は資料編掲載

開催数	審議内容							合計
	条例制定	規則制定	規程制定	要綱制定	予算編成	報告、その他	後援許可	
13	4	7	1	3	5	36	48	104

(3) 委員研修状況

実施日	研修先	研修場所	研修目的	研修内容
8月30日	松阪市	嬉野生涯学習センター	県内教育委員等が様々な教育課題の中から共通のテーマをもとに研修を深めることで、県内各市町教育委員会間の連携を深めるとともに、三重県の教育の推進を図る。	講演 文部科学省総合政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 テーマ 「安全・安心」 市町教育委員会情報交換会 「教育委員会の活性化と委員としての役割」
10月24日	松阪市	クラギ文化ホール	県内教育関係者が共通の課題意識をもとに、子どもたちの目線に立った教育実践と学校づくりを進めていくため、三重の教育のあり方を考える機会とする。	講演 立命館アジア太平洋大学 学長 出口 治明 氏 テーマ 「これからの時代に求められる人材の育成」
10月29日 ～10月30日	静岡県清水町	清水中学校	教職員の働き方改革や小中学校の規模・配置の適正化を实践する先進地の視察を行い、今後の事業に活かしていく。	清水町立清水中学校 教職員勤務時間縮減の取り組み
	静岡県袋井市	袋井市教育委員会		袋井市教育委員会 幼小中一貫教育の取り組み

(4) 学校訪問

実施日	実施場所	実施内容
5月20日	笹尾東小学校	令和元年度取組状況の説明 指導・助言を行うと共に、英語専科教諭による英語授業の見学を行いました。
12月23日	城山小学校	令和元年度取組状況の説明 指導・助言を行うと共に、通級指導教室担当教諭による通級指導の見学を行いました。

2 2019年度東員町教育基本方針

東員町第5次総合計画に基づき、「みんなが喜び、輝き、幸せを実感できるまち東員」を実現するために、「子育てを楽しめるまち、東員」「3感を育む教育のまち、東員」「住み続けたいなるまち、東員」を目指して、幼児教育、学校教育、社会教育の充実に努め、時代的ニーズと社会の変化を的確にとらえた教育行政の諸事業を推進しました。

また、生涯にわたる人間形成の基礎、つまり「生きる力」の土台となる基本的信頼感・自己肯定感・自己有能感を育み、子どもたちの「意欲」を高めることに主眼を置き、3つの提言として、“「表現する力」の育成”、“やりぬく力（GRIT）の育成”、“16年一貫教育プラン「子育ての手引き版」の活用と実践”を掲げ、取り組みを推進しました。

3 事務局体制

教育行政の推進を図るため、東員町教育基本方針に基づき、諸施策を実施しました。

教育総務課では、教育委員会の事務、学校施設の整備・改修や日常の維持管理の他、東員第一中学校の移転事業、学校給食センターの管理・運営を行いました。

学校教育課では、学校における教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的な指導を行うと共に、少人数指導や特別支援教育推進のために人的配置などの諸施策を実施しました。

社会教育課では、文化振興と生涯学習、スポーツの充実に努めるため、各種外郭団体と協働で諸施策を展開すると共に、体育施設の適正管理や図書館の充実に努めました。

(1) 事務局組織



(2) 職員数の状況

課名	局長	課長	課長補佐	係長	主任	主事	臨時職員	再任用	合計
教育総務課	1	2	1	1	-	1	1	-	7
学校教育課		2	2	1	-	2	2	-	9
社会教育課		2	2	1	-	2	6	1	14
合計	1	6	5	3	-	5	9	1	30

(3) 外部職員数の状況

幼稚園	園長	副園長	教諭		支援員	計	保育園	園長	副園長	保育士		支援員	調理員	計	幼保合計
			正規	臨時						正規	臨時				
三和	1	(1)	4	0	2	7	みなみ	(1)	1	2	7	1	1	12	19
稲部	1	(1)	3	0	5	9	いなべ	(1)	1	6	8	1	1	17	26
神田	1	(2)	6	0	6	13	東員	(1)	2	6	7	0	2	17	30
笹尾西	1	1	3	0	2	7	笹尾第一	(1)	(1)	4	5	1	1	11	18
笹尾東	1	1	4	0	1	7	笹尾第二	(1)	(1)	5	4	0	1	10	17
城山	1	1	3	0	2	7	しろやま	(1)	(1)	4	6	3	1	14	21
合計	6	3(4)	23	0	18	50	合計	(6)	4(3)	27	37	6	7	81	131

※ 幼保一体化のため園長・副園長の（）は幼稚園・保育園をそれぞれ兼務する。

職員数は幼保合せて配置調整し、園児数によって増減します。

※ 東員保育園の調理員2名のうち1名は期限付臨時職員

小学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援員等	用務員	計	
三和	1	1	9	5	1	0	0	1	18	3	2	1	6	24
稲部	1	1	12	6	1	1	1	1	24	1	4	1	6	30
神田	1	1	21.5	6	1	0	0	1	31.5	3	8	1	12	43.5
笹尾西	1	1	10	3	1	0	0	1	17	2	3	1	6	23
笹尾東	1	1	11	5	1	0	0	1	20	1	4	1	6	26
城山	1	1	9	6	1	0	0	1	19	3	4	1	8	27
合計	6	6	72.5	31	6	1	1	6	129.5	13	25	6	44	173.5

中学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援員等	用務員	計	
東員第一	1	1	18	7	1	0	0	1	29	4	3	1	8	37
東員第二	1	1	17	3	1	1	0	1	25	4	3	1	8	33
合計	2	2	35	10	2	1	0	2	54	8	6	2	16	70

※ 県費教職員

- ①再任用短時間も0.5人として教諭に含む。
- ②講師は非常勤（初任研後補充、女子体補充は除く。）を含む。ただし、代替（病休・休職・産育休等）の臨時的任用は除く。
- ③養護、学業、事務は臨時的任用を含む。ただし、代替（産育休等）の臨時的任用は除く。

※ 町費教職員

- ①用務員には委託職員（シルバー人材センター）を含む。
- ②非常勤講師のうち14名は県費非常勤と兼務。

(4) 教育予算の推移（歳出）

（単位：千円）

区分	H28（決算）	H29（決算）	H30（決算）	R1（決算）
学校教育	1,438,908	1,411,317	1,441,109	1,490,673
社会教育	327,859	275,504	209,925	190,376
合計	1,766,767	1,686,821	1,651,034	1,681,049
町一般会計	7,658,451	7,780,022	7,639,101	7,938,869
教育費割合（%）	23.1	21.7	21.6	21.2

(5) 指導主事による要請訪問の状況

指導主事2名が、園・学校の研修会や国語の読解力・書く力向上、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の研修会等に出向き、授業改善に取り組むとともに、子どもの権利条例に関する学習会講師、いじめ等問題行動対応、16年一貫教育プラン学習会講師など学校教育に関する専門的な指導や助言を行い、教員の指導力の向上や研修の充実を図りました。また、初任者教員への指導・助言を行いました。

指導主所要請訪問回数は学習会も含めて下記の通りです。

区分	幼稚園・保育園	小学校	中学校	合計
要請訪問回数	11	18	6	35

※ 表内の数字は、指導主事2名で訪問した回数を表しています。

教育予算の推移（歳出）の明細

区 分		H28	H29	H30	R1
学校教育	ファミサポ経費	2,337,582	0	0	0
	保育園費	410,605,062	394,961,542	381,879,257	390,922,102
	保育園管理費	13,521,187	14,193,223	21,420,445	27,888,429
	教育総務費	176,238,261	151,974,154	227,295,636	246,532,989
	小学校費	174,018,279	192,554,169	187,739,158	153,520,906
	中学校費	102,899,599	96,586,760	94,847,372	113,119,431
	幼稚園費	259,258,645	269,551,079	268,683,734	275,918,770
	学校給食費	300,029,825	291,496,559	259,243,133	282,769,858
	計	1,438,908,440	1,411,317,486	1,441,108,735	1,490,672,485
社会教育	社会教育費	206,533,097	165,178,361	119,479,672	108,759,868
	保健体育総務費	20,850,600	21,068,567	1,039,919	766,944
	保健体育振興費	100,474,779	89,256,568	89,405,974	80,849,209
	計	327,858,476	275,503,496	209,925,565	190,376,021

※平成29年度より、ファミサポ経費は、子ども家庭課へ所管が変わりました。

※平成29年度より、保育園費の子育て支援センター経費は子ども家庭課へ所管が変わりました。

※平成30年度より、社会教育費、保健体育総務費の人件費は教育総務費に計上されております。

Ⅲ 事業の点検評価

令和元年度教育委員会の主要事業について、教育委員会自らの点検評価は次のとおりです。
なお本町の特徴として、幼保一体教育を実施しており、評価も教育・保育にまたがっております。

教育総務課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
教職員健康管理事務	1,744 千円 0.04 人	<p>学校教諭及び用務員の定期健康診断を実施し、健康の保持・増進を図るとともに、産業医と契約し、過重労働対象者に対する面接指導を行いました。個々の勤務状況等を聞き取り、働き方・生活習慣の改善を提案し、心身のケアを図り、円滑な学校教育の推進に努めました。今年度は、延べ18名の教員に面接指導を実施しましたが、過重労働対象者の解消には至っておりません。今後も取組みを強化してまいります。</p> <p>また、教育長を筆頭に、校長代表、養護教諭代表並びに教職員代表、町職員等計8名の委員で構成された総括安全衛生委員会で協議を行い、職員室の空調設備改修や留守番電話機能の導入など教職員の健康の確保と快適な職場環境の整備に努めました。</p>
東員保育園テラス柱修繕	421 千円 0.01 人	<p>保育園では、消防施設及び電気設備、遊具などの保守点検、修繕を行い、園児の安心・安全な園生活の向上を図りました。</p> <p>また、施設の経年劣化に対応して、テラスや屋根等の修繕の他、東員保育園遊戯室等空調設備の改修を行い、安全な園運営を推進しました。</p>
しろやま保育園玄関屋根等修繕	242 千円 0.01 人	
東員保育園遊戯室等空調設備改修工事	9,739 千円 0.04 人	
稲部小学校・笹尾東小学校プールろ過機修繕	3,509 千円 0.04 人	<p>経年劣化で老朽化した施設の改修工事を実施しました。</p> <p>学校生活における児童生徒の安全確保と快適な学習環境づくりとして、施設の適切な維持管理を行いました。</p> <p>神田小学校の特別支援学級籍の児童が増加していることに伴い、児童の状況に対応した教室の改修を行いました。</p> <p>城山小学校で今年度から通級指導を実施するため、校舎北側に通用口、スロープを設置し、教室内の間仕切り、空調及び照明設備の改修を行いました。</p> <p>東員第二中学校の障がいのある生徒に対応して、トイレを多目的化しました。</p> <p>東員第一中学校のランチルーム等の老朽化に対応して、空調設備改修及び屋根塗装を行い、安心・安全な施設管理に努めました。</p> <p>東員第一中学校の体育館トイレを和式から洋式便器に改修し、避難所としての機能の充実を図りました。</p>
神田小学校特別支援教室空調及び間仕切り修繕	1,298 千円 0.01 人	
城山小学校通級指導教室改修工事	3,779 千円 0.04 人	
東員第二中学校トイレ多目的化改修	864 千円 0.01 人	
東員第一中学校ランチルーム等空調設備改修工事	12,096 千円 0.04 人	
東員第一中学校ランチルーム屋根塗装工事	10,066 千円 0.04 人	
東員第一中学校体育館トイレ改修工事	8,668 千円 0.04 人	
神田幼稚園テラス柱修繕	421 千円 0.01 人	<p>幼稚園では保育園と同様に、消防施設及び電気設備、遊具などの保守点検、修繕を行い、園児の安心・安全な園生活の向上を図りました。</p> <p>また、施設の経年劣化に対応して、テラスや屋根等の修繕の他、神田幼稚園遊戯室等空調設備の改修を行い、安全な園運営を推進しました。</p>
城山幼稚園玄関屋根等修繕	242 千円 0.01 人	
神田幼稚園遊戯室等空調設備改修工事	9,739 千円 0.04 人	

事業名	決算額 職員数	点検・評価
東員第一中学校移転事業	497 千円 0.5 人	東員町学校施設整備基本構想をもとに、東員第一中学校移転を計画し、各地権者との事前交渉、都市計画、農政部局等と協議を行いました。用地調査では、測量、地質調査、農業用水管等の調査を行いました。用地交渉の遅れにより調査業務、三重大学との共同研究は、令和2年度へ繰越しをしております。令和元年度につきましては、用地買収に係る鑑定評価を行いました。
学校給食センター運営事業	282,770 千円 2.0 人	<p>小中学校の児童・生徒や保育園・幼稚園の3歳以上を対象（教職員を含め約3,100食分/日）に、健康で豊かな学校・園生活が送れるよう、栄養教諭の指導により、安全・安心で栄養バランスのとれた豊かでおいしい給食を提供しました。</p> <p>学校給食の食材費は、保護者負担となっており、給食費として納入いただいております。給食費負担の公平性を確保するため、未納対策においては「未納対策マニュアル」に基づき、口座振替不能者に対しては振替不能通知を送付し、3ヶ月以上の未納者に対しては催告書を送付しました。また、保護者へ電話による納付勧奨や戸別訪問により徴収を行うなど、適切な措置に努めました。</p> <p>平成25年4月から調理業務及び配送・回収業務の民間委託を開始し、調理業務では人員の効果的・効率的配置による正確な調理に加え食材の品質管理や衛生管理が向上し、配送業務においても衛生管理や車両の点検など危機管理が徹底され、安定かつ確実に給食を各学校等に届けることができました。</p> <p>配送・回収業務につきましては、一般競争入札による複数年契約により、引続き同じ事業者により業務を継続しました。</p> <p>食育、給食指導につきましては、栄養教諭が各担当の受配校の児童・生徒に対して、指導を行いました。児童達が食への興味や関心を持ち、食事の重要性・喜び・楽しさ等を身につけられるように各小中学校と共に計画的な食育等を進めました。</p> <p>給食センターでは、児童が自分たちの食べている給食がどのように作られているかを学ぶため、希望する学校に対して施設見学会を2回実施いたしました。</p> <p>さらに、教育の一環として、勤労体験学習を行っている小中学校に対しては、児童・生徒の受け入れを行いました。児童・生徒には、実際に調理室に入って仕事を体験していただき、給食ができるまでの工程について学んでいただきました。</p> <p>しかし、令和2年3月に入り新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として小中学校の臨時休校措置がとられ、給食を中止しました。</p> <p>施設・設備等の維持管理については、老朽化に伴う修繕等を行うなか、洗浄作業時の熱中症対策として、スポットクーラー3台の購入と給食配送用コンテナ3台の買換えを行いました。</p> <p>また、施設等維持管理の、効率化と長寿命化を図る長寿命化計画に基づき、炊飯設備一式の更新工事を行いました。今後も長寿命化計画に基づき随時更新していく予定です。</p>

学校給食費収納状況

年度	調定額	収入済額	収入未済額	未納件数	収納率
令和元年度	125,700,498	124,726,408	974,090	93名	99.23%
平成30年度	127,825,037	126,832,137	992,900	86名	99.22%

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
保育園運営事業	390,923千円 正職 31人 臨時 37人	<p>保育園では、就労や疾病などにより家庭で保育を行えない保護者の代わりに、園児の保育をしています。令和元年度の保育園は計562名（0～5歳児、3月31日時点）の園児を受け入れ、3歳以上児では幼稚園児との合同保育を実施しました。</p> <p>各園で、各年齢の発達段階に応じた保育・教育を行い、子どもの健康と健全な成長が保障されるよう努めました。特に乳児期には、保護者や保育者との間に生まれる基本的信頼感をしっかりと育むこと、幼児前期では、しつけの中で自律性を育むこと、幼児後期では、遊びを通じて自主性を育むことを第一の目標に掲げながら運営してきました。これは、16年一貫教育プランの保育教育理念に則ったものであり、子どもたちの生きる意欲を高める保育となっています。</p> <p>また、特別な支援を必要とする園児については、保育支援員（計6名）を配置し、個に応じた支援を行いました。ここ数年、支援を必要とする園児が増加傾向にあります。予算の関係上、限られた支援員で子どもをみていくための知恵と工夫が必要と考えます。</p> <p>土曜日保育は、東員保育園を拠点園として通常の時間帯で実施しました。職員配置の面で課題はありますが、3月末時点の登録者は96名で、実際に登園する園児数は日によって異なりますが、1日平均でおよそ34名となりました。</p>
A L T派遣事業	12,610千円 0.11人	<p>中学校に2名（一中、二中に各1名）、小学校に1名（小学校6校を巡回）、計3名のA L Tを配置し、中学校の英語教育及び小学校の外国語活動（3・4年）英語を中心とした外国語（5・6年）の充実に努めました。</p> <p>小学校英語専科教員2名（中学校英語科免許所有の小学校教諭）とティームティーチング（以下T T）で授業を行い、子どもたちが英語に慣れ親しみ、対話力を向上させることで成果がありました。</p> <p>また、学期毎に中学校からA L Tを各園（幼稚園・保育園）に派遣し、5歳児を中心に英語に親しむ遊びや活動を行い、幼児期から英語に慣れ親しむ機会を設けました。</p> <p>中学校の英語科では、教諭とT Tで授業を行い、ネイティブスピーカーとしてだけでなく、生徒のリスニング、スピーキング練習、会話の練習、英文の添削指導や暗唱指導、英検受検者の模擬試験（会話・応対）等を行い、生徒のコミュニケーション能力の基礎の育成に取り組みました。</p> <p>小学校では、新学習指導要領本格実施（R 2年）に向けて、3・4年生は週1時間、5・6年生は週2時間の授業を先行実施しました。各専科教員とA L TがT Tを行い、生の英語の音声で基本的な表現を学び、歌やゲームに取り入れて楽しみながらコミュニケーション能力の素地を養いました。</p> <p>英語での対話に慣れ、楽しみながら意欲的に学習したり、日常の中で生きた英語に触れる機会を充実させ、異文化を理解し、協調する姿勢を育成したりするとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきます。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価															
特別支援教育推進事業 (巡回相談員派遣事業)	1,640千円 0.02人	<p>専門的な資格(臨床心理士・特別支援教育士)を持った巡回相談員2名を派遣しました。臨床心理士は、幼稚園・保育園・小学校・中学校へ出向いての巡回指導、特別支援教育士は、教職員や保護者等を対象とした教育相談を実施しました。</p> <p>巡回相談においては、各園校の気になる子ども達の保育や授業での姿を観察した上で、その子ども達に応じた支援のあり方について、担任への助言・指導を行いました。教育相談では、知能検査(WISC-IV)の実施、相談員からは保護者や教職員に向けて、具体的に支援の方法について助言を行いました。</p> <p>(巡回相談の状況) (人数)</p> <table border="1" data-bbox="769 698 1439 801"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>幼・保</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回相談</td> <td>22</td> <td>55</td> <td>15</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>教育相談</td> <td>0</td> <td>72</td> <td>11</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>巡回相談や教育相談での助言を基に、各園校において個別の指導計画を作成し、児童生徒の状況に応じた取り組みを行っています。</p> <p>また、特別支援教育コーディネーターのスキルアップを図るため、年間3回の研修会を行いました。2回は、中学校の事例について考える「事例さかのぼり研修」の研修会を実施しました。講師に町の相談員(臨床心理士)を招き、事例について児童生徒の困り感とその要因を探り、個の発達課題に応じた支援方法について考え合いました。残り1回は、三重県教育委員会特別支援教育課の指導主事を招聘し、「新学習指導要領の概要のポイント～『自立活動』の組み立てを中心に～」について講義を受け、具体的な事例と共に、特別支援学校の指導要領で大切にされていることを学びました。具体的な事例も交えて学んだことで、特別支援教育の観点と共に各園校での実践へつなぎ、児童生徒の困り感を軽減することができました。</p>	内容	幼・保	小学校	中学校	その他	巡回相談	22	55	15	-	教育相談	0	72	11	1
内容	幼・保	小学校	中学校	その他													
巡回相談	22	55	15	-													
教育相談	0	72	11	1													
特別支援教育推進事業 (学習支援員活用事業)	32,851千円 0.02人	<p>学習支援員を小中学校に合計31名配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒を中心に、個に応じた支援を行いました。また、より専門的な知識をもとに支援できるよう全ての支援員とコーディネーター対象に研修を実施しました。</p> <p>今後は、さらに特別な支援が必要な児童生徒が増えていくことから、特支学級の担任の指導力が向上すること、各校のコーディネーターがしっかりと機能すること、支援員を有効に配置していくこと等が重要となってきます。</p> <p>よって、引き続き、より充実した特別支援教育が実施できるよう、サポートファイルにある個別の支援計画・指導計画をもとに、保護者、担任、支援員の連携を充実させながら、個々のスモールステップを目標に進めていきたいと考えます。</p>															
学力向上推進事業 (学力調査活用事業)	2,821千円 0.05人	<p>児童・生徒の学力の定着状況を把握するために、総合学力調査(I R T)を実施しました。対象学年及び教科は以下のとおりです。</p> <p>【4月】 小6:社・理</p> <p>【11月】 小1, 2, 3:国・算</p>															

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価																																																								
		<p>2月 全国 / 東員町 (達成率) 社会 : 64.3 / 60.3 (93.8%)</p> <p>【中3】 4月 国語 : 61.9 / 64.9 (104.8%) 数学 : 51.7 / 58.1 (112.4%) 英語 : 53.6 / 55.6 (103.7%) 社会 : 56.7 / 57.0 (100.5%) 理科 : 59.0 / 60.4 (102.4%)</p> <p>小学校は、毎年安定した結果となっています。これは毎回、調査結果を各校がしっかりと分析・把握し、調査結果の4階層についてD層（低学力層）児童10%未満を目標に、D層児童を軸にした授業改善や個別の指導・支援の充実に取り組む成果と考えます。</p> <p>また、全国平均をやや下回っている中学2年生の理科、社会については、さらなる授業改善を図り、基準を達成できるように努めています。</p>																																																								
<p>学力向上推進事業 (少人数教育推進事業)</p>	<p>14,775千円 0.02人</p>	<p>小中学校に少人数指導、教科指導等を行うための非常勤講師を配置しました。小学校では県費非常勤講師と組み合わせ、算数を中心に習熟度別指導、チームティーチング等を行いました。中学校では定数配置が不可能な教科を中心に任用し、持ち時間の調整を行い県費の非常勤講師と組み合わせ、数学、英語を中心にチームティーチング等を行いました。</p> <p style="text-align: right;">R1.4現在</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>校種</th> <th>定数</th> <th>県非常勤</th> <th>町非常勤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>6名</td> <td>5名(64h)</td> <td>9名(64h)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>1名</td> <td>3名(40h)</td> <td>5名(65h)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※初任研関係非常勤講師は除く ※人数は辞令上の延べ人数</p> <p>学力がA層・D層の2極化にならないよう個に応じたきめ細やかな指導の結果が以下のとおりです。</p> <p style="text-align: right;">R1.11現在</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">校種</th> <th rowspan="2">教科</th> <th colspan="6">D層10%未満達成校数</th> </tr> <tr> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小学校</td> <td>国語</td> <td>3校</td> <td>1校</td> <td>2校</td> <td>1校</td> <td>1校</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>2校</td> <td>3校</td> <td>4校</td> <td>3校</td> <td>1校</td> <td>2校</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">R1.11現在</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">校種</th> <th rowspan="2">教科</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学校</td> <td>国語</td> <td>0校</td> <td>0校</td> <td>0校</td> </tr> <tr> <td></td> <td>数学</td> <td>0校</td> <td>0校</td> <td>1校</td> </tr> </tbody> </table>	校種	定数	県非常勤	町非常勤	小学校	6名	5名(64h)	9名(64h)	中学校	1名	3名(40h)	5名(65h)	校種	教科	D層10%未満達成校数						1年	2年	3年	4年	5年	6年	小学校	国語	3校	1校	2校	1校	1校	2校	算数	2校	3校	4校	3校	1校	2校	校種	教科	1年	2年	3年	中学校	国語	0校	0校	0校		数学	0校	0校	1校
校種	定数	県非常勤	町非常勤																																																							
小学校	6名	5名(64h)	9名(64h)																																																							
中学校	1名	3名(40h)	5名(65h)																																																							
校種	教科	D層10%未満達成校数																																																								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年																																																			
小学校	国語	3校	1校	2校	1校	1校	2校																																																			
	算数	2校	3校	4校	3校	1校	2校																																																			
校種	教科	1年	2年	3年																																																						
		中学校	国語	0校	0校	0校																																																				
	数学	0校	0校	1校																																																						
<p>学校図書館支援事業</p>	<p>3,221千円 0.02人</p>	<p>①専門員の勤務について ・1日5時間45分勤務 ・神田小学校→72日勤務(週2日) ・その他の小学校→36日勤務(週1日)</p> <p>②主な業務内容</p>																																																								

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>図書室の利用率向上、使用に関する環境整備を行いました。授業支援としては、読み聞かせ、課題図書を紹介、読書感想文の書き方指導等を行うことで、効果的な児童への学習・読書を支援しました。</p> <p>また、図書委員会活動の支援、読書登山ブックリスト（小3～6年用）第3版の作成にも携わり、児童の主体的な読書活動の推進に務めました。</p> <p>③1勤務日あたり平均貸出冊数の推移 2015年度→ 56.52冊(前年度比+16.7%) 2016年度→ 60.12冊(前年度比+ 6.4%) 2017年度→ 69.34冊(前年度比+15.3%) 2018年度→102.33冊(前年度比+47.5%) 2019年度→ 96.66冊(前年度比- 5.6%)</p> <p>※図書館専門員勤務日に集計した貸出冊数をもとに、1勤務日の貸出冊数の平均値を表したもの。(参考)2018年度より中学校配置を廃止。2019年度は臨時休校の影響で、貸出冊数は微減少。</p>
<p>16年一貫教育プラン 実践事業</p>	<p>2,169千円 0.03人</p>	<p>本プランは7年目に入り、本プランの実現に向けて5段階の取組を進めようと考えております。現在は第3段階です。</p> <p>第1段階：方針を策定し予算を獲得する 第2段階：教職員への研修、理論に基づく実践の展開 第3段階：家庭への啓発と発信、家庭での実践の展開 第4段階：子どもの意欲的な姿、家庭での習慣化の実現 第5段階：子どもの顕著な変化（意欲、社会性、共感力の獲得）が起こり、成果と課題が明確化され、それが全国へ発信できるまでのレベルになる</p> <p>（第3段階における目標指数） 子育てのポイントを意識している保護者の割合：70% （具体的な取組み） ①子育て手引き版を活用した保護者対象の学習会 ②子育ての手引き版（中学生用）の作成 ③園や学校だよりによる保護者啓発 （経年変化）A小学校調査による 2017年（35%）2018年（63%）2019年（66%）</p> <p>今年度は、中学生（思春期）の子育てに課題や不安を抱えている保護者に対して、新たに「子育ての手引き版（中学生用）」を作成・配付し、思春期の子育てのポイントを伝えながら子育てを支援しています。</p> <p>令和2年からの実施に向けて「東員英語検定テキスト」を作成し、4技能の育成に向けた英語授業の研究を進めました。</p>
<p>特色ある学校づくり事業</p>	<p>1,800千円 0.02人</p> <p>※ 小学校 200千円 中学校 300千円</p>	<p>《各校ごとの主な特色ある取り組み》</p> <p>【三和小】 『伝統を大切に教育推進事業』では、今年で54年目となる伝統の鼓笛演奏を行ないました。6年生が5年生に教え、引き継ぐという取り組みを経て、誰もが演奏者となり、伝統を担っていくことは児童にとっての誇りとなっております。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>2学期に実施したIRT学力調査では、算数の全国平均スコアを8.9ポイント上回ったものの、東員町比は2.6ポイント下回る結果となった。今後も「関わり合い、高まり合う授業を創造し、確かな学力を身につけるための授業研究」を推進していくことで、さらなる積み上げがはかれると考えます。</p> <p>【稲部小】 『学力向上推進事業』では、三重大学教育学部の「学びの共同体」スーパーバイザーの岡野先生の指導の下で、授業中の姿を通して理念を学ぶ校内研修会を実施しました。この研修は、提案した子どもの姿に基づき、具体的な子どもの姿から単元の求めるもの、子どもの力としたものを深く解釈した上での課題設定のあり方、子どもの揺らぎを見逃さない「戻し」や教師の「繋ぎ」など、毎回繰り返し学ぶことを財産として積み上げている授業中のリアルな姿を、自主公開授業研究会で公開することが出来た。研究会には、県外を含む約80名の参加者があり子どもの実際の姿を通して学び合うことができたと考えます。</p> <p>【神田小】 『豊かな人間性を育てる体験活動推進事業』では、先人のすばらしい工夫と知恵が凝縮された「神田用水」、伝統行事の「石取り祭り」や「獅子舞」などについて学びました。そして、手話や点字、洋裁や編み物、座布団づくりや平和学習などを多くの方に教えていただきました。また、野菜などを栽培し、それを調理することで人との触れ合い、実りと食の喜びを保護者やお世話になった方々とふれあえたことで、豊かな人間性を確実に伸ばすことができたと考えます。</p> <p>【笹尾西小】 『心を育む教育推進事業』では、対話力の育成と関わる力をつけるために、日常の学習場面における友達との学び合いだけでなく、ゲストティーチャーから学ぶ機会を設けました。ゲストからの一方的な情報の伝達ではなく、体験活動を通して感じた疑問を投げかけたり、体験指導を受けたりする中で学校外の人との関わりを持つことができました。特に「笹尾西小応援隊」と称して、地域の皆さんに家庭科のミシンの指導などの裁縫実習や、昔の暮らし体験での遊びや生活の様子など、実演を交えながら支援をいただきました。また、5年生の餅つきでは地域の方や、読み聞かせボランティアも交えて交流し、より対話力が向上したと考えます。</p> <p>【笹尾東小】 『地域に開かれた学校づくりを推進する中で豊かな人間性を育てる環境づくり』では、「幼稚園や保育園との交流を通して、自分たちの成長に気づく」ことをねらいとし、年間を通して園児の授業体験や1年生が園の発表を参観するなどの交流を行いました。1年生の児童は園児たちに優しく教えたり、声をかけたりする姿が見られました。こうした交流を通して、1つ学年が上がり、上級生になったことを意識し成長することができたと考えます。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>【城山小】 『教師の授業力向上推進事業』では、教師の授業力を向上させるための研修を実施し、それを実際の授業に活かすことで児童の学力を向上させることを目的としています。また今年度は、積み重ねてきた研修に加え、「子どもが主役の授業」をより深めるため、横浜国立大学の高木教授に3回訪問していただき、ご指導いただきました。11月には研修の節目として自主公開授業研究会を開催し、先生方から一定の評価をいただくことができ、今後も研修を重ねることで更に成果を得ることができると考えます。</p> <p>【東員一中】 「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」を育み、地域とつながる学校づくり事業では、生徒の困り感をつかむために、玉置教授を招聘し4回の研究授業を行いました。この研究授業では生徒からの質問すべてを教師が答えるのではなく、生徒へ戻して、生徒の考えを繋いでいくことの価値と具体的な方法を学びました。また、学力に関しては「関わり合う・聞き合う・学び合う」という姿勢を迫及したことで、学ぶ向上意欲につながり、D層の点数を平均して伸ばすことができたと考えます。</p> <p>【東員二中】 『確かな学力を育む環境整備事業』では、「学ぶための環境づくり」をするというコンセプトで、環境整備(美化や修繕)に取り組みました。環境整備をすることで、生徒にとって良い環境で学習に取り組ませることができました。また、数学科の習熟度別少人数指導については、4月のIRTと全国標準テストの結果を比較したところ、D層を4月に比べ大幅に縮減することができており、成果が出ていると考えます。</p>
東員町いじめ問題対策事業	110千円 0.02人	<p>東員町いじめ問題対策連絡協議会と、東員町いじめ問題調査委員会を行いました。 東員町いじめ問題対策連絡協議会は、2回開催しました。なお、委員の構成は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県・法務局桑名支局長 ・中学校区スクールカウンセラー ・三重県いなべ警察署生活安全課長 ・東員町校長会小学校会長 ・東員町校長会中学校会長 ・東員町社会福祉協議会長 ・東員町青少年育成町民会議会長 ・東員町主任児童委員会代表 ・東員町人権擁護委員長 <p>第1回調査委員会では、平成30年度の国の問題行動等調査の結果と、開催時点でのいじめの発生状況等について報告しました。また、いじめ事案について、該当校長より報告がありました。 第2回では、開催時点での「いじめ」の発生状況、事案の内容について報告しました。また、長期化する事案についても、意見を交流しました。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>東員町いじめ問題調査委員会は、1回開催しました。なお、今年度は委員の委嘱を行い、委員の構成は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皇學館大学名誉教授 ・三重くわな法律事務所 弁護士 ・北勢病院精神科医 ・臨床心理士、学校教育巡回相談員 ・元小学校長、教職員指導力向上対策指導員 ・元幼稚園長、人権擁護委員 <p>調査委員会では、平成30年度の東員町のいじめ問題について状況報告を行うと共に、長期化している事案について、委員より助言をいただき、解決に向けた意見交流が行われました。</p>
幼稚園運営事業	251,003千円 正職 32人	<p>幼稚園は、学校教育法に基づく「学校」として、小学校以降の学習生活の基盤を培う重要な役割を担っています。特に、3歳以降の幼児期後期においては、自分で考え行動することを覚える時期であり、遊びを通じて自主性を育てていかなければなりません。自ら選んだ遊びを通じて子どものやろうとする気持ちを大切に、未知なるものへの自発的な探求心を育み、目的を持って積極的に取り組む力をつけるための教育・保育に取り組みました。また、特別な支援が必要な園児には、保育支援員18名を配置し、個に応じた支援を行いました。その他にも小学校へのスムーズな接続をするため、集団を意識した全体活動を大切にしています。幼保一体化施設と各園が小学校と隣接しているという利点を生かしながら、幼保小の連携も充実させることができました。</p>
総勤務時間の縮減に係る取組		<p>【幼稚園・保育園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務量の削減（個人ノートの簡素化等） ・環境整備、教材準備時間の削減（園の美化清掃や、お手玉等の玩具づくりを保護者にも協力していただく） ・定時退園日の設定（1週間に1日はノー残業デーを実施） ・休暇取得日数増加の取組（年休前年度比3日以上取得増を目指す） <p>※平均 13.2日/年→目標15日/年</p> <p>【小学校・中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の短縮（議題の精選、資料の配付方法等を見直し60分以内で終了） ・定時退校日の設定（毎週金曜日小学校18時、中学校19時） ・休暇取得日数増加の取組（年休前年度比2日以上取得増を目指す） <p>※平均（小）14.1日/年→目標15日/年 （中）9.9日/年→目標15日/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間の縮減（目標：4H以上/月減） ・学校閉庁日の設定 ・留守番電話の導入 ・タイムカードの導入 ・『東員町立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する規則及び方針』を策定

社会教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
人権・青少年育成事業 (社会教育諸経費)	3,677千円 0.15人	子ども達が日常考える個人の夢や希望などを発表することや、大人達がそれぞれできる役割を考えながら行動することで、互いを思いやり相手を尊重する気持ちを持つことができる社会の構築を目指します。 ・人権講座・講演会（演題：子ども食堂の運営を通して考える子どもの人権） 5月25日（土） 入場者数 55人 ・人権教育青少年育成推進事業（人権標語コンクール他） 12月7日（土） 入場者数 107人
<p><青少年の育成>（青少年育成町民会議）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ①第33回子育ての集い 11月17日（日）子ども家庭課と共同で開催 講演会及び分散会（30人参加） ②第38回町民歩け歩こう大会 10月14日（月・祝）天候不良のため中止となった。 ・青少年の自主・自立及び非行防止と環境浄化活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①第26回青少年の主張 12月7日（土）小学生4人・中学生1人が発表。 当日は中学生の実行委員10人が司会進行を行い、企画・運営へも参加しました。（入場者107人） ②パトロールの実施 年間を通じて、校区ごとに夜間パトロールを実施。（延べ308人が参加） ・健全育成啓発活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①街頭啓発活動 町行事や町内の商業施設で啓発物の配布等の活動を行いました。（延べ65人参加） ②青年層育成活動 8月25日（日）にキッズダンスコンテストを開催しました。（入場者600人） <p>地域にある小学校のフェンスに掲げられている「あいさつの絵看板」の設置を契機に、子ども達による「あいさつ運動」が町内に浸透し、これからを担う青少年が心身ともに成長していく過程を身近に感じていくなかで、地域で関わりを持つ大人達も良い影響を受けています。様々な場所で子ども達のあいさつが木霊する町であり続ける為にも、社会全体で子どもを見守っていく活動を継続していきます。</p>		
事業名	決算額 職員数	点検・評価
成人式事業 (成人式経費)	543千円 0.34人	新成人による実行委員自らが企画・運営したことでまとまりのある式典を開催することができ、成人を迎えるにあたり、責任と自覚を持つ機会となりました。 開催日 令和2年1月12日（日） 対象者 295人 出席者 229人（出席率 77.63%）
文化事業 (イベント経費) (公演委託料)	20,791千円 0.61人 ※入場料収入 4,066千円	歌舞伎やミュージカル等様々なジャンルの事業を実施するなかで、町民が身近な場所で文化事業に触れることができました。また、ミュージカル公演は四日市市と共同開催することで、市町の交流にもつながりました。 ・第24回こども歌舞伎公演 日時 6月9日（日）14:00～ 入場者 628人 ・ミュージカル（第7弾）2回公演 合計入場者 1,088人 日時 11月30日（土）17:00～ 12月1日（日）14:00～ ・東員「日本の第九」演奏会（第31回） 日時 12月15日（日）14:00～ 入場者 534人 ・第38回音楽祭 日時 令和2年2月2日（日）12:30～ 入場者 511人
総合文化センター維持 管理事業（維持管理経費）	45,826千円 0.59人	図書館照明LED化工事設計業務委託や、ひばりホール調光室内の調光操作卓の修繕等を行うことで施設の適切な維持管理に努め、利用者への利便性を図りました。
公民館諸事業 (公民館諸事業経費)	3,553千円 0.67人	公民館講座は、（一社）東員町文化協会に委託し、成人を対象に28講座を開講、266人が受講しました。また、小学生を対象に「こどもカレッジ」として、土日等の休日に体験型講座を実施。親子体験講座も含めて10講座を開講し、延べ305人が参加しました。様々な学びの場に参加できる機会を提供することで、年齢に関わらず、生涯学習への関心を高める一助となりました。

事業名	決算額 職員数	点検・評価
笹尾コミュニティーセンター運営事業 (笹尾コミュニティーセンター経費)	7,171千円 0.25人 臨時職員1.99人	1名の臨時職員を配置し、隣接する笹尾連絡所と一体的に管理運営を行いました。動作不良となった煙感知器の取替え等消防設備修繕のほか、自動ドア開閉装置の取替え、パワーアンプ(音響機器)の更新、2階会議室(2)及び事務室の蛍光灯照明器具が修理不能となったためLED照明に取替え対応するなど、施設の維持管理に努めました。
東員町・大台町子ども交流事業	594千円 0.04人	東員町の小学生(4~6年生)29人と大台町の小学生(5~6年生)10人が1泊2日のキャンプを通して自然に触れながら交流を深め、社会性を身につける機会となりました。 【実施日 8月19日~20日(1泊2日)】
図書館運営事業 (図書館経費)	17,765千円 1.81人 臨時職員4.0人	図書館司書による選書のもと、蔵書の充実に努めるとともに図書のリサイクル会を開催し、年数経過等により不用となった図書の有効活用を図りました。また、プレールームでボランティア団体(朗読ひばりの会)による読み聞かせ会や人形劇の鑑賞会を行って児童サービスの充実に努め、学校教育と連携して引き続き「東員町読書登山」による子どもの読書活動の振興に努めました。9月22日(日)には、当日総合文化センターで開催されたとういん市民活動支援センター主催の「わくわくフェスタ」と協働して「わくわく読み聞かせ会」をプレールームで実施し、大型絵本の読み聞かせや紙しばいを行いました(子ども30人、大人28人入場)。 なお、3月から新型コロナウイルス感染症の影響で幼稚園や小中高等学校が臨時休校するなどしましたが、町民の読書活動を維持するため、感染予防対策を施したうえで通常開館を4月12日(日)まで継続しました。
文化財調査委員会事業 (文化財調査委員会経費)	35千円 0.02人	令和2年2月18日(火)に文化財調査委員会を開催し、中世城館の跡である「大木城址」の現況、郷土資料館の運営、町指定天然記念物の保護の状況について審議いただきました。
文化財保護事業 (文化財保護経費)	1,649千円 0.20人	町指定天然記念物であるトウインヤエヤマザクラ及び山田半ノ木谷イヌナシ自生地等において、樹木医に保護作業を委託し実施しました。また、県指定無形民俗文化財「猪名部神社上げ馬神事」及び町指定無形民俗文化財「六把野獅子舞」の維持・保存を図るため、保存団体に補助金を交付しました。 【トウインヤエヤマザクラ】 トウインヤエヤマザクラ(第1号)後継木は樹高約1.8m、幹の直径約3cmに成長しましたが今春の開花はなく、第2号は例年より2週間ほど早く開花しました。引き続き樹木医の管理のもと、挿し木や取り木を実施し次世代育成の試みを行いました。 【観音もみじ】 年数経過が原因と見られる枝枯れが進んでおり、次世代を育成するため種子の採取と種まきを試みました。
郷土資料館運営事業 (郷土資料館経費)	215千円 0.05人	城山小学校北校舎1階を郷土資料館として、事前申込み制により運営しています。当年度は小学校児童の見学により、入館者数が増加しました。今後はこれに加えて、展示の魅力を高めることにより一般見学者の増加を目指します。

事業名	決算額 職員数	点検・評価
ニュースポーツの普及・推進事業	564千円 0.05人	スポーツ推進委員の活動として、10月26日（土）に中部公園を利用したパークゴルフ大会の開催と町主催の町民体育祭の企画運営等を行いました。また、三重県・北勢地区のスポーツ推進委員講習会、研修会に出席する等ニュースポーツの普及、推進のための研鑽に努めました。
県スポーツ大会への参加、町主催のスポーツ大会の開催	2,775千円 0.24人	第13回「美し国三重市町対抗駅伝大会」が、令和2年2月16日（日）に開催され、町代表選手10人が県庁から県営総合競技場までの約42kmのコースでタスキをつなぎ、29市町中「町の部」で3位、過去最高タイムでの成績を収めました。 ※町主催の体育行事は次のとおりです。 10月6日（日）第61回町民体育祭 23自治会 12月8日（日）第52回町民駅伝大会 20自治会 なお、町主催事業は歴史もあり、スポーツによる地域振興や健康増進等の機会として十分な役割を果たしておりますが、子どもの減少など選出が難しい地域もあり、とりわけ自治会対抗行事では、今後の在り方が課題です。
スポーツ関係団体への育成支援	5,563千円 0.27人	総合型地域スポーツクラブ「とういんフレンドリークラブ」は、町民の誰もが気軽にスポーツに参加できるよう、スポーツ教室やスポーツイベントを行い、町民ニーズの把握と、魅力ある企画に努め、町民の健康増進に寄与することができました。 体育協会は各種競技大会を通じ、参加者のコミュニケーションと体力向上、競技レベルの向上を図りました。また、スポーツ少年団はスポーツを通じた子どもたちの健全育成を図るため、指導員の養成や各種大会等を実施することができました。 なお、「東員町スポーツ協会」については、体育協会・スポーツ少年団・フレンドリークラブの3団体が有機的に連携し、生涯スポーツの振興と健康増進を担うための支援を行うと共に、町民体育祭や町民駅伝大会の企画運営及び「美し国三重市町対抗駅伝大会」参加についての運営を委託し事業を実施しました。 これら3団体の統合により、事務局も効率的に機能し、団体間の調整も容易となったことから、今後も町民の誰もが参加しやすく、スポーツを通して健康維持や交流ができる場を充実していくよう次年度以降も支援に努めていきます。
体育施設整備事業	4,598千円 0.14人	体育施設の状況については老朽化が進んでおり、城山テニスコート人工芝改修工事（2面）を実施しました。また、陸上競技場の屋外時計の改修を行いました。 今後の課題として、体育施設の老朽化が進み、整備にかかる経費が高額になる中、計画的に施設整備を考える必要があります。
体育施設運営事業 （学校体育施設運営事業含む） （維持管理経費） 体育館・武道館 7,590千円 陸上競技場 14,550千円 町民プール 15,622千円 中央球場・テニスコート 8,387千円 城山球場・テニスコート 5,888千円 長深グラウンド 1,934千円 学校体育施設 計 53,971千円	53,971千円 0.87人 (使用料収入) 9,532千円 7,825千円 3,149千円 936千円 2,376千円 17千円 1,331千円 計 25,166千円	町体育施設は一般利用者のほか、1年を通して自治会対抗行事、スポーツ少年団活動、フレンドリークラブが企画した教室等の会場として利用されています。町民プールについては、開業期間中は天候不良の日が多く、更に9月4日・5日の豪雨災害の影響を受けた為、利用者数は24,347人と前年度比で約4千人ほど減となりました。また、令和2年度中にプールのあり方について検討します。 学校体育施設開放については、町民にとって最も身近なスポーツ施設として地域の団体やグループの方の卓球やバレーボール、バスケットボール等の練習などに活用し、陸上競技場については、令和2年度から10年間、指定管理者として㈱ヴィアティン三重ファミリークラブを指定しました。 より多くの町民の健康増進に繋がるよう、また、利用者が安全に施設を利用することができ、楽しくスポーツに取り組めるよう施設の維持管理と運営に努めています。

IV 学校（幼稚園・保育園、小学校、中学校）の評価

東員町学校（園）教育目標「確かな学力と豊かな人間性をもとに社会に参画する力（自己実現と社会の発展に貢献する力）の育成」の実現に向けて、各園・学校が様々な実践に取り組みました。

自己評価の結果を見ると、各学校・園ともに概ね目標を達成しているといえます。目標を達成した項目分野に関しては、教育委員会としての取り組み・支援についても、一定の成果をあげたものと自己評価するところです。しかし、評価が低い項目に関しましては、教育委員会全体でその要因を分析し、次年度以降の重点的な支援について検討する必要があると考えます。

※平成27年度より特に重点を置く項目を絞り込み、統一した形で、年度末に達成度を自己評価しています。小中学校においては、学校関係者評価委員より評価に対する意見等もいただいております。

※本町は、幼保一体施設により3歳以上児は合同で教育・保育を実施しており、各園は教育・保育一体の取り組みについて自己評価をしています。

①幼稚園・保育園

各園が研修においては、保育実践をビデオで撮って行うビデオ研修や、当町の指導主事を招聘する園内指導主事研修を行い、保育者の保育力及び教育力の向上に努めました。また、幼稚園・保育園と小学校のなめらかな接続となるよう隣接する小学校と積極的に交流してきました。

危機管理面では、命を守る取組として、避難訓練や引き渡し訓練を定期的に行いました。また、食物アレルギーを持つ園児が年々少しずつ増えてきており、アレルギー事故が起きないよう対応マニュアルの周知徹底を行ったり、ヒヤリハット事例研修を行ったりしてきました。

保護者との信頼関係作りにおいては、常に保護者に寄り添い共感しながら話を傾聴したり、ともに悩みながら子どもの発達段階に応じた関わり方について考え合ったりしてきました。また、関係機関との連携についても積極的に行ってきました。

これらの日々の丁寧な取組により、全園で全ての内容において、「目標どおり達成した」という自己評価に繋がったのではないかと考えます。

②小学校・中学校

確かな学力の定着という面では、全ての小中学校においてD層（低学力層）10%未満にするという目標に向けて、授業改善等を行いました。具体的には、全国学力学習状況調査、総合学力調査（IRT）、みえスタディチェックを自校でも採点し、「こどもたちの強みと弱み」や、出題された問題から「今、子どもたちに求められている学力」を素早く把握し、各教員が授業づくりにフィードバックしました。その結果、基礎学力の定着などについては、前年度と同様に概ね各校が目標を達成しました。課題としては、一部の学校で「子どもたちの読書の意欲向上」が目標を少し下回っています。学校図書館運営専門員（リブネット）の有効活用、読書登山の取組の見直し等が必要であると考えます。

豊かな人間性を育むことについては、教科化された「特別の教科道徳」、人権教育カリキュラムに沿った人権教育等とおして、自他を大切にす心、思いやりの心を育みました。しかし、中学校で自死という起きてはならない事案が発生しました。このような悲しい出来事が二度と起きないよう3感を育む教育を推進していく必要があると考えます。

健やかな体については、体育の指導計画の見直しを図りながら、バランスのとれた体力づくりが行われています。また、幼保で運動プログラムを受けた子どもたちが入学してくることも、東員町の強みと言えます。

信頼される学校については、日頃から、児童生徒だけでなく、保護者や地域の方の思いや考えを掴みながら学校運営を行っています。学校評価アンケートや評議員会でいただく評価は概ね高いと言えますが、時折いただく厳しいご意見も学校との信頼関係があるからこそ出てくるものと考えます。今後も、この信頼関係をもとに、学校が地域のコミュニティの拠点となるよう地域と共に歩んでいきたいと考えます。

③新型コロナウイルス感染症対策に係る臨時休業

2月に入り国内において新型コロナウイルスに感染した事例が相次いで報告されるようになり、東員町においても、①海外から帰国した児童生徒の対応、②発熱等風邪の症状がみられる場合の対応、③感染予防対策の徹底について各園校へ通知を出しました。3月に入ると、国の要請により、2日から学年末始休業も含め、幼稚園と小中学校を臨時休業としました（保育園は登園自粛）。臨時休業中は、各園校において、児童生徒の健康把握、家庭学習教材の提供、学校での緊急受け入れを行いました。

一方で、職員に対しても、感染しないよう手洗いの徹底、マスクの着用や不要不急の外出抑制など感染防止に努めるよう教育委員会から通知を出しました。

準備期間がないまま臨時休業となりましたが、幸い大きな混乱もありませんでした。

各園校では、4月6日から始まる新年度に向けて、カリキュラムの見直しや、様々な感染症対策に努めました。

V 評価委員会の意見

評価委員会において、委員から次のようなご意見をいただきました。今後の教育委員会の運営及び点検・評価の参考にさせていただきます。

1 教育総務課に係る主要事業について

P 2

- (1) 委員研修状況において、研修の目的、内容は記載されているが、研修の成果を共有し、業務へ反映させること。

P 6

- (2) 教職員健康管理事務において、延べ18名の過重労働対象者に対して面接指導を行っているが、今後もさらなる過重労働の減少に努めること。

P 6

- (3) 教職員健康管理事務において、留守番電話機能を導入しているが、今後も教職員の健康確保と快適な職場環境の整備に努めること。

P 7

- (4) 東員第一中学校移転事業において、三重大学との共同研究をさらに進めていくこと。

2 学校教育課に係る主要事業について

P 10

- (1) 学力向上推進事業（学力調査活用事業）において、中学校2年生の理科、社会の達成率が全国平均より低い状況となっているため、具体的な対策を行うこと。

P 12

- (2) 特色ある学校づくり事業において、各校の実施した事業に対する具体的な成果を記載すること。

P 14

- (3) 東員町いじめ問題対策事業において、いじめ問題対策連絡協議会と、いじめ問題調査委員会が連携を図り、いじめ防止等の対策に努めること。

P 15

- (4) 総勤務時間の縮減に係る取組において、小中学校にタイムカードを導入しているが、教職員の勤務時間の把握を徹底し、さらなる働き方改革を進めること。

3 社会教育課に係る主要事業について

P 16

- (1) 文化事業において、決算額が年々減少している。文化事業は、町民にとって東員町に住む魅力でもあるので、多くの町民が参加できる事業を検討すること。

P 16

- (2) 文化事業において、今年度は新型コロナウイルス感染症対策により多くのイベント等が中止になっている。人が多く集まり三密になることはできないが、講演会などはオンライン開催するなど、工夫次第で開催が可能であるため、今後の開催方法を検討すること。

P 16

- (3) 公民館諸事業において、AIやSociety5.0、SDGsなど、社会の変化に対応した分野の学び直しも10年、20年先の東員町を担っていく町民にとっては必要であるため、検討していくこと。

4 幼保、小中学校の自己評価について

- (1) 小中学校の自己評価書において、読書の意欲向上の評価が4（目標を上回って達成した）になっている学校の要因や成果を他校へ反映させること。

自己評価書

(幼稚園・保育園、小学校、中学校)

目 次

	ページ
【幼稚園・保育園】	
1 三和幼稚園・みなみ保育園	1
2 稲部幼稚園・いなべ保育園	2
3 神田幼稚園・東員保育園	3
4 笹尾西幼稚園・笹尾第一保育園	4
5 笹尾東幼稚園・笹尾第二保育園	5
6 城山幼稚園・しろやま保育園	6
【小学校】	
7 三和小学校	7
8 稲部小学校	8
9 神田小学校	9
10 笹尾西小学校	10
11 笹尾東小学校	11
12 城山小学校	12
【中学校】	
13 東員第一中学校	13
14 東員第二中学校	14

令和元年度 三和幼稚園・みなみ保育園 自己評価書

評価基準(④:目標を上回って達成した ③:目標通りに達成した ②:目標を少し下回った ①:目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・月案を含めた研修で月に1回以上学ぶ機会を作り保育環境や玩具を整え発達を促しました。年長児を中心に縦の連携した保育を行うことで、保育者だけでなく年上の子から受けた優しさや活動が受け継がれ心身の育ちに繋がりました。 ・どの子にもわかりやすい環境を心掛け、自らの力で行動できる事を大切に継続して取り組むことで、やり抜く力に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共に保育していく事を基本にし、保護者を認めつつ子育てのポイントを家庭へ知らせていくことで保護者の意欲を高めます。 ・保護者が安心して相談できる園をめざし、個々の弱みに対応できるよう支援や援助のスキルを今以上に高めより良い保育に繋がっていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・発達や個性を考慮した援助や認め励ましを意識して日々保育をすることで、自己肯定感・自己有能感を高めることに繋がりました。 ・遊びの中からの学びを意識し、子どもの自主性を大切に保育を目指しました。個々の発想を認め、年齢に応じた援助を行えるよう研修を重ね、環境とクラス作りが出来ました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や行事には保育者の個性も発揮しつつ、子ども達に心豊かな園生活が送られるような計画を立て成長を促していきます。 ・報告・連絡・相談を怠らず、個人で判断せず職員間が連携して対応していきます。 ・保護者から安心して相談できる園と感じてもらえるような対応をしていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事研修・年齢部会・園内研修から、「遊びの中からの学び」を意識し研修を積み上げました。それぞれの年齢の記録から「行動の意図」があることを理解し、保育者の適切な役割を学びあいました。その結果、保護者アンケートで、「心身の成長を感じている」という項目に94%の保護者が「そう思う」と感じ、高い評価に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未満児保育の拡大や人数増加に対応し、乳幼児が快適に過ごせるよう担当制の重要性和環境・保育の資質向上を学び、尚且つ新しい発想を取り入れた実践に繋がります。 ・自己研修・外部研修を報告だけに終わらず全職員に共有し、どの様に子どもの学びに繋がったかを報告する研修を行い、保育の向上に繋がっていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月計画的に様々な場合を想定し、不審者・地震・火災・洪水の避難訓練を行いました。小学校とも連携し引き渡し訓練も行いました。 ・園が川に近く、昨年の大雨・洪水の経験も活かし、危機管理を持って訓練を行いました。高所避難できるよう年2回イオンの屋上への訓練を行っています。支援センター利用者と一緒に保育児も参加して訓練を毎月行うことで、未就園の親子にも災害について意識が高まりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や遠足の園外での災害や交通事故等の危機管理マニュアルに基づいた、定期的な訓練や見回りを位置付けていきます。 ・3歳未満児が増え避難が円滑に行えるよう、環境を見直していきます。普段から事故を想定して保育を行うようにしていき、改善を素早く行い事故防止に努めます。また迅速な行動がとれるよう普段の生活から意識を高め、体づくりに取り組んでいきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に上がるまでにつけたい力と3感を認識し取り組む事で、自ら遊びを見つけ意欲を持って活動する子が増えました。 ・年中から2年継続しての交流を計画的に行うことで、親子共に小学校へ入学する期待を高め授業に関心を持つようになっていきます。保育・授業交流やCLM研修を通して学びや支援を継続する事で、個々の強みや弱みを共有し子どもも掘みに繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3感を育む子育て20のポイントをわかりやすく園での姿に例え、園便り・クラス便り等を通じて、保護者や地域にも浸透していくよう続けていきます。 ・作成した接続カリキュラムを活用し、幼保・小の接続では教育課程をより深く理解しあえるようにします。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・物事の結果だけでなく心の動きや成長も意識し、焦らず待つ事や見守る事の大切さを伝えてきました。 ・保護者の思いや悩みには園全体で考えるようにしました。支援に必要な知識を研修や会議等で考え、時には専門機関に学び保護者の育児の参考になるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いを受け止め、時には様々な関係機関とも連携をはかり、適切な方法で共に悩みを解決に近づけるよう努力します。悩みを相談しやすい園を目指し、信頼関係を大切に誠意を持って対応していくようにします。 ・早朝・延長児が増え保護者と会う機会が減っていく中、各クラス保護者との信頼関係を深めていけるよう努力していきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育利用者は年々増加傾向にあり、子育て不安や心労の軽減を目的とした利用の割合も増えてきました。保護者支援にも努め、未就園家庭の子育てについて相談できる場となりリピーター率としても高くなりました。 ・地域と連携した農業体験は数年継続し園行事として位置づいてきています。園だけでは経験できない農業や店頭販売を体験することで、興味が深まると共に達成感に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターへ来園する親子や一時保育利用者へ積極的に関わり、何気ない会話からの情報も見逃さないようにしていきます。 ・町内では核家族が進み気軽に子どもを預けることができないという保護者の困り感に対し、一時保育での受け入れて保護者支援に努めます。

令和元年度 稲部幼稚園・いなべ保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子ども理解に努め、全園児を全職員で協力して豊かな保育を目指してきたことで、より子ども理解が深まりました。 「主体性」を重んじる保育を大切に、個々の思いに寄り添うことで一人一人が生き生きと園生活を送ることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の発達の理解は担当保育者だけでなく、クラスの担任間や園全体で把握するように努めます。 未満児クラスから以上児クラスへの移行を滑らかなものにするためにも、丁寧に引継ぎを行うようにします。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の反省を踏まえて職員連携の意識を高く持つことができました。「主体性を大切に保育」を全職員で取り組むことができました。 職員間の連携のもと、クラスや学年の垣根がなく、自然な異年齢交流の場があり、子どもの成長発達を促すことにつながりました。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなに些細なことでも職員間で報告し、助け合うことが大切です。今後は園だけでなく、保健師・発達支援室等関係機関との連携も必要不可欠なため積極的に行っていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ベビーヨガ研修を開催し、体験を通して子どもの発達を学ぶことができ、保育実践に活かしました。 年齢別部会は、様々な角度から意見を聞くことができ、保育を見直す機会になりました。 5歳児は夏から気温に関心を持ち、記録してきたことで、様々な学びの芽が育ちました。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修は効率的に進めていけるように、話し合う内容を各々がまとめて提示することや、あらかじめ意見を持って参加することで、時間短縮と中身の濃いものにするよう、より意識します。 各々が研修で学んだことを発信し、職員間でさらに共有していけるようにします。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 散歩での危険箇所を横断する際には職員を配置する様に対策を取りました。 プール入水時や散歩先、想定外の時間の予告なし訓練をすることで、子どもや職員の危機意識を高めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 痙攣やてんかんの園児が増えていることから、更に細かく職員一同で情報を共有し、救急搬送時の訓練を取り入れていくようにします。 引き渡し訓練では保育園籍の保護者の意識を高めるために、長時間保育の時間帯でも行っていくようにします。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 町教研で他園校の保育や授業を参観したり、幼保小中が意見交流する場があり、自園で実践してきたことや、各園校で大切にしている理念や思いを広めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しく始まる小学校への接続カリキュラムについて、幼保小で話し合いを深めるようにします。 乳幼児期の発達が小中学校への成長にどれだけ影響し、いかに大切であるかということを保護者に発信し意識が高まるように更なる啓発をします。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問や個別懇談だけでなく日々の連絡ノートや送迎時に保護者に直接話をしていくことで気軽に話しやすい関係を作れるように努めました。その結果、保護者からの悩みや困っていることなどを受け、一緒に解決法を考えていくことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の養育状況だけでなく、家庭環境や育ちの背景など、様々な環境を踏まえて一人一人の育ちを支援していくようにします。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティアの方による人形劇などを見ることや聴くことで、年齢が小さい子なりに豊かな感性を育むことにつながりました。 北大社構造改善センターで大社祭りの映像を見せてもらい、大社祭りについての共通イメージを持って遊びを展開させることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き教室がないため、園開放が遊戯室しか使用できず、雨天時や準備等の際に困難が生じました。天気の良いときに、園庭開放するののも一つの方法として検討していきます。 地域に伝わる祭りなどを知らせたり、体験から遊びに出てきた部分を逃さず取り上げるなどして地元で伝わる伝統文化も大切にしていけるようにします。

令和元年度 神田幼稚園・東員保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を多面的にとらえ、内面を探り、個に応じた援助をしながら発達を促すことができました。 ・子どもを取り巻く環境や背景の理解を含め要因を探り、園でできることを工夫しながらスモールステップでのねらいを持ち、変容を喜び合い、認めるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を丁寧に分析し、そこから見えてくる課題に対し、出来ることから繰り返し子どもに指導、援助していきます。 ・園内だけでなく、発達支援室等、関係機関との連携の中でより細やかに発達を促す手立てを探っていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を發揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や支援員などと連携を深めながら、子どもの興味や関心に寄り添い、発達に合わせた保育を細やかにすることができました。 ・不安があったり、自信のなかった子どもが保育者との信頼関係を土台に気持ちを安定させ、遊びや生活を主体的に向かう姿がみられました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園児の増加に伴い、担任が保育にかかる時間が長くなり職員間の連携が希薄になるので、効率的な研修、環境設定や教材準備も計画的に行っていきます。 ・職員自身の3感も高められるように、日頃からコミュニケーションを積極的に取り合い、相談しやすい職場環境を作っていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ実践や保育提案などで互いの保育を見合い、子どもの姿や保育者の指導性を分析しながら、保育者の資質向上に繋げました。 ・討議をする中から3つのキーワードを出し合い、子どもの見方や接し方など工夫することで、子どもの遊びの充実や生活の意欲に繋げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の遊びや生活を通して、子どもの育ちや興味、学びを捉えることで次への指導や環境、教材を考え、主体的な子どもの活動を援助していきます。 ・町内、外部研修内容を全体月案等を利用して、簡潔にポイントを押さえた報告を行うことで共有していきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いなべ警察の協力のもと、凶悪な不審者が乱入した場合の、職員連携や園児避難誘導などの訓練をすることができ、他園の職員も共に学び合うことができました。 ・保育後、その日に合ったヒヤリハットを振り返り、どの場面や場所が子どもの怪我や事故に繋がるのか把握し、共有できました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や不審者の乱入など、色々な想定の中でどのようにすることが命を守る事に繋がるのか、危機管理をより強化し、保育者の意識も高めていきます。 ・事故を恐れるあまりに子どもの活動に制約を掛け過ぎないよう、のびのびと安全に遊べる環境や保育者の立ち位置等に細心の注意を払っていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・神田小学校との交流活動や、保育、授業参観などで職員同士が子どもの姿を通しての成長の様子や課題を出し合い、子どもの指導援助に結び付けることができました。 ・東員第一中学校との交流からは、互恵性のある取り組みのための話し合いを持ったことで充実した内容となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校との交流の場が生徒、園児にとって互恵性のあるものとなるよう前もっての話し合いを今後もしていきます。 ・接続カリキュラムの充実をしていきます。 ・乳幼児保育・教育の重要性を保育者自身が自信を持って伝えられるように、自分を高められる保育を行っていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の困り感に寄り添いながら、保護者自らが元気になるように丁寧な関わりを重ねてきました。 ・園だよりやクラスだよりなどで、子育ての手引きを伝えたり、個人ノートで子どもの成長を伝えることで保護者自身も子育てに自信や意欲を持つことができるようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝、長時間を受ける保育園児の場合、保護者と担任が直接会って話す機会が少ない傾向にあるので、意識的に時間を作り関わっていきます。 ・今後も保護者の得意な分野を活かせる取り組みを募集し、保護者自身が園に関わってもらえるようにしていきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ちびっこパークでは未就園児とその保護者が園生活に興味や関心を持ってもらうことができました。その中で質問や悩みなどを個別に対応することができました。 ・地域ボランティアやシルバー人材センター、地域高齢者との交流会を持ち、園児の健やかな心身の発達に繋げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちびっこパーク利用者と在園児との交流の場を計画し、前もって知らせることで、参加するのが楽しみとなるよう、より園に親しみを持つ園開放にしていきます。 ・地域の中の園として、様々な世代の方との触れ合いを通して、園児の中に豊かな心、優しい心を育み、園内での縦割り保育にも活かせられるようにしていきます。

令和元年度 笹尾西幼稚園・笹尾第一保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子ども掴みに努め、スモールステップ、支援の引き算など個々に合った援助方法を考えていき、実践することができました。 CLMや巡回相談、年齢別部会などで学んだことを実践に繋げ子どもたちの指導、援助に取り組みました。 	<ul style="list-style-type: none"> 園全体で子どもの姿と共に、支援・指導方法を共有し、途切れの無い保育に努めていきます。 一人一人の子どもの発達を園全体で支え、子どもの発達の道筋やより良い援助の方法を深く学んでいく研修をもっていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に職員同士が、子どもの姿を出し合いながら報告・連絡・相談を行い、連携を深めることができました。 子ども一人ひとりが自分の思いを出し、主体的な園生活を送れるよう日々の保育を振り返り、クラスや園での話し合いを行い、発達に合わせた環境や玩具、支援の方法を探り、実践につなげてきました 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での認め合いや協力を意識し、職員自身の3感を高めていきます。 3歳未満児と以上児の担当が、お互いの現状を月案などを通して支援や援助の方法を探り、保育力を高めていく研修に努めます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修で具体的な指導方法を学び、実践に活かし取り組むことができました。 指導主事研修、食育講演会、CLM、町教研、年齢別部会など様々な研修等に参加し、声掛けや遊び方など多くのことを自らの学び、保育に活かすことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの知識を深めたり、保育の実践につながる自主研修などに積極的に参加し、学んだことを園内にも広め、保育力の向上、職員の保育の資質を高めていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の避難訓練を遊んでいる時、送迎時など時間を変え、さまざまな想定のもとに実施し、避難方法や職員の役割などを確認することで職員の意識を高めることができました。 散歩先に危険個所がないか等事前に下見をしたり、散歩の途中で子どもたちにも繰り返し伝え職員全員で危機管理に対する意識を高めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨機応変に対応できるように更なる訓練、研修をし、いざという時に冷静に対応できるように訓練を積み重ねていきます。 園外保育での危険個所をつかみ、職員同士で共通認識し、安全対策に努めます。また、怪我等を未然に防ぐにはどうするとよいのか、ヒヤリハットを活かし職員全員の危機管理能力を高めていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 町教研やCLM等の研修では幼保小中の職員が理解を深め、学びあうことができました。 小中学生と交流する機会があることで、憧れの気持ちをもち、大きくなることへの期待を持つことができました。 野菜の栽培を通して、生長の過程や畑の管理、調理などに興味を深め、年長児では収穫した野菜で保護者とチケットでお店屋さんごっこをするなどすることで子どもたちの意欲が高まりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 16年一貫プランをさらに意識し、小中の子どもの姿をイメージしながら、見通しを持った保育を継続させていきます。 幼児の発達や学びの連続性を保証するために接続カリキュラムを意識した保育に園全体で取り組んでいきます。また、生活や経験を重視し、野菜の栽培やエコへの関心を高める保育を行っていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の悩みや不安への気持ちに寄り添い、場合によっては関係機関につなげ、子どもの成長発達の支援を共に考えるなどし、保護者との信頼関係を深めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に寄り添い共感しながら、共に子どもの成長を見守っていき、信頼関係を深めていきます。 クラス便り、家庭訪問、個別懇談などで「子育ての20のポイント」を子どもの姿から伝え、保護者と園とが同じ思いのもと子育てできるようにしていきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育では地域の方々と挨拶を交わしたりラジオ体操をする等して交流できました。また、ひばりの会、わくわくサークルなど読み聞かせなどを通して交流を持つことができました。 昨年に引き続き園児の祖父母で結成された「お助け隊」の方と一緒に栽培活動を行い交流を深めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後地域の方への挨拶や交流を通し、関わる機会を大切にしていきたいです。また、栽培活動、食育を通し「お助け隊」や地域の方との交流に努め、開かれた園づくりを目指します。

令和元年度 笹尾東幼稚園・笹尾第二保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに寄り添い、安心感のある環境作りに努めました。基本的信頼感を土台に子どもも抱みをしっかりとい行い発達に見通しを持ち、援助・環境を工夫してきたことで一人ひとりの子どもの発達を支えることができました。 保護者アンケートにある『園での活動を通して心身の成長を感じる』との項目で、93%の保護者の方に『そう思う』との評価をいただきました。 	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児クラスの、ほぼ半数の子どもたちが4月当初、オムツでの生活でした。家庭での教育力の低さが伺える中、生活習慣の確立に向けて、保護者との連携をどう密にとっていくかが課題にあります。 全職員が園全体の子どもの姿を把握し、積極的に他クラスの子どもたちと関わり、子ども理解を深めて研修に繋げていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を發揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> クラスの中・学年間・又は園全体の職員同士が、園内研修や日々の会話の中で子どもの姿や悩みなどを出し合い、考え合うことができました。 教育目標に向けて同じ意識を持ちながら、各担任の得意分野を活かし、誕生会で『ウクレレパネルシアター』を披露するなど個性を發揮することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も職員間の連携を大切に協力しながら、互いに探求心を持ち、高め合っていくことを目指します。 常に報告・連絡・相談を心がけ、子どもたちの育ちに適切な環境作りに努めていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 各研修の中で発達やねらいを押さえて学び合うことができました。自分の保育の中で戸惑っていること、悩んでいることなどを、どの職員もしっかり考え、伝え合う姿勢で研修に参加しているため、大きな学びに繋がりました。 職員が県カリキュラム委員として実践を出し、園内でも研修することで子どもの学び・成長にも繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年齢での発達を学び、自らを高めようとする姿勢を大切にし、スキルを身につけていきたいです。 保育者のどのような援助・環境設定がどのような子どもの学びに繋がったのかなど、もっと具体的に深めていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に避難訓練に取り組み、危機管理の意識を高めることができました。毎朝、アレルギー対応確認を全職員で行い、情報共有することでアレルギーに対する意識も日常的に持つことができました。 園児が熱性痙攣を起こした時の迅速な対応、行政への報告、保護者への誠意を持った対応を適切に行うことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 想定外も起こりうることを念頭に置き、訓練だけでなく日常的に危機管理意識を持ち、臨機応変に対応できる力を身につけていきます。 園全体で子どもたちに危険がないか目を配り、ヒヤリハットの共有を大切にしていくことで子どもたちの命を守っていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 子育て学習会で小中学校の先生に講演していただくことで、大切にしたいことは年齢が上がっても繋がっていくのだということを保護者に意識していただく有意義な時間となりました。 幼保小交流会では体を動かして遊ぶことを取り入れ、子どもたちにとって遊びが大きな学びとなっていることを伝え、学び合うことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも交流会の内容を試行錯誤しながら、より得るものが大きい交流会にしていくよう考えていきます。 中学生との交流では職員自身が16年一貫教育プランの最終の子どもたちの姿として意識し、連続した学びの充実に努めます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の方から悩み事を打ち明けてくれるようになってきたのは、信頼関係を構築できたからこそだと感じます。まずは保護者の思いを受け止めていくことを大切にしたいです。 必要に応じて各関係機関(行政・福祉・教育)との連携を取り、情報の共有をすることで適切な子育て支援に努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が保護者の多様なニーズを掴み、保護者自身が子育てを楽しんでいけるよう、思いに寄り添うスキルを高めていきます。 今後も各関係機関と必要に応じて連携していきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ちびっこパーク(園開放)を遊戯室で行い、大型木製遊具を使用し、より楽しめる場にしてきました。地域の未就園児に園の様子を知ってもらい、親同士の交流の場を提供してきました。 園外保育での地域の方との交流や、ボランティアさんとの交流の機会を持つことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後ともちびっこパークを開催する中で園に興味・関心を持ってもらい、親支援を進め、親同士が繋がれる場にしていきます。 園外保育などでの地域の方との自然な交流を大切にし、開かれた園作りに努めます。

令和元年度 城山幼稚園・しろやま保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの成長の様子をしっかりと捉え、子どもの主体性を尊重し、遊びだしたことに合わせた援助を心掛けてきました。 GLM研修に全職員が参加し、困り感のある子どもへの支援の方法を皆で考え合い深めることができました。また、保護者や子ども家庭課と共に、発達に合わせた支援を考え、援助していくことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの自己充実が保障できるよう、日々続けていける記録の方法を考え、俯瞰的に姿を見る力を養い、子ども掴みや日々の保育の質の向上に活かすことを継続していきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を發揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修や日頃の職員同士の会話の中から子どもの姿を園内で共有してきたことで、全職員で子ども達の姿を気にかけたり、見守ったりすることができました。 教育目標達成に向けて、日課を見直したり、月案・週案等のねらいを実践に繋げたりすることを常に考えて、環境設定を工夫してきました。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿を通して、職員間のコミュニケーションを図り、同じ思いで保育を進めていきます。 今後も職員間でお互いの保育を見合う機会を作り、子どもの姿や各年齢の発達を学ぶと同時に、保育者一人ひとりが大事にしていることに関しても理解を深めていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 公開保育研修を通じて、様々な角度から保育を振り返ったり、今まで当たり前に行っていたことを改めて考え直したりすることができました。 必要な環境や保育者の関わりについて学ぶことができ、今まで以上に子どもの気持ちに寄り添うことで、子ども同士の関わりにも変化が見られるようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを継続して活かしていけるようにしっかりと意識を持っていきます。また、発達課題の研修を深め、縦の繋がりを強くいき、乳幼児期の土台を構築していきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 職員同士が危機管理の意識を持ち、動きや連携を確認し合いながら、避難・防犯訓練を行いました。 給食・おやつのアレルギー対応の確認を毎日全職員で共有する事や、事故報告・ヒヤリハットを記録することで、未然に防ごうとする意識が高まり、事故防止に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時は、臨機応変に動く必要があるため、これまで以上にあらゆる場面を想定して訓練を行うよう職員の役割を明確にし、綿密に計画を立てていきます。 アレルギー対応や事故防止策は、代替え保育士への伝達を確実にを行い、引き続き園全体で周知徹底していきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 研修を深めてきたことで、子ども達が遊びの中で主体的に学んでいけるように援助を行って来ました。また、小中学校の先生に基本的信頼感の基盤を大事にしていることを伝えることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小の職員同士、子ども同士が交流を持てる機会をもっと増やしていけるように発信していきます。また、合同研修の機会を持ち、園校の大事にしていることを伝え合い、お互いのことをより理解しスムーズな接続をしていけるよう働きかけます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に日頃の子ども姿や心の動きを伝え、成長や課題を共有しながら一緒に見守ったり、喜び合ったりしてきました。保護者が園での活動や遊びを理解し、協力していただけることで、子ども達の意欲にも繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは、保育者の親身な対応に安心感を持ってもらいましたが、保護者の就労時間により話す機会が少ない方もみえたので、保育者の思いを伝えるだけでなくとどまらず、保護者の思いに寄り添いながら、子どもの成長を共に喜び合っていけるようにさらに支援していきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ちびっこパークに積極的に遊びにきてもらうように声をかけたことで、入園前に少しでも園の雰囲気や様子を知ってもらうことができました。 シニアの会や民生委員の方々と一緒に行事や伝承遊びを楽しむ機会が年間を通してあり、地域の方々と触れ合い、温かさを感じることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節や行事にあった環境を整え、未就園児にとって、より来園が楽しみになるようにしていきます。 地域の方には進んで挨拶をし、園内や散歩先で積極的に交流を深め、子ども達が地域に親しみを持って育っていけるように関わりを持ちます。

令和元年度 三和小学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：人として、心豊かに生きる子 ～優しく 賢く 逞しく～

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知：確かな学力	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習で、国語と算数のテキストを活用したスパイラル練習に取り組み、漢字の1・2学期末テストの全校定着率は95.8%となった。 ・全学年の算数で少人数授業(1,2年はIT指導)を実施し、IRT学力調査の結果では、全校平均で5.8P全国より高く、大きな効果をあげた。 ・東員学び検定は計画的に取り組み、平均97.5点で全員が合格した。
	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学力調査の結果分析を行い、D層支援と授業改善に生かした。 ・全学級提案授業を年2回行い、教師力と授業力を磨き合った。 ・三重大中西教授を4回招聘し、算数指導等の方法を学び実践した。 ・「ペア、グループ学習」「反応名人」に力を置いた授業づくりを行うことによって、学び合う姿が徐々に見られるようになってきた。
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習のすすめ」を作成・配付すると共に、チェックシートを毎日活用し、家庭との連携を図り、家庭学習の定着化を進めた。 ・宿題を丁寧に点検し、学習時間の意識化と直しの徹底を進めた。 ・家庭学習の時間(1年20分、2年以上10分×学年)を意識して取り組んだ児童は98%であった。引き続き、家庭学習の習慣化に取り組む。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の10分間読書を毎日確保した。年間を通して「朗読ひばりの会」による読み聞かせを行い、児童が本に触れる機会を増やした。 ・図書館専門員を活用し、ブックトーク、ブックバイキング、ライブラリークエスト等、本への興味関心が高まる読書活動を実施した。 ・週末読書、読書登山の目標読破に取り組み、既読冊数が増加した。
徳：豊かな人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教科書教材を中心に、全学年が年間計画に沿って授業実践し、児童の道徳的心情を養った。 ・人権・命・平和の教育は他教科との関連学習を全学年で実施した。 ・道徳科の授業実践を通して、年間指導計画の見直しを図った。 ・今後も「考え議論する道徳」のあり方を学習し実践につなげたい。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・人権週間で人権の授業参観を実施し、保護者への啓発を行った。 ・年4回のおいじめ調査を実施し、実態把握と迅速な対応を行った。 ・「東員町子ども権利条例」を、各学年の発達段階に応じ学習した。 ・児童理解と支援のあり方を追求し、特別支援教育の充実を図った。 ・巡回相談やスクールカウンセラー等の関係機関との連携を図った。
	コミュニケーション力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のSST実施で、児童のコミュニケーションスキルや社会性の育成を図った。また、適宜「人との関わり方」を指導した。 ・児童会中心にあいさつ運動を実施し、あいさつの推進に努めた結果、「進んであいさつする」児童は98%となった。 ・年間3回のQ-U調査を実施し、実態把握と仲間づくりを進めた。
	児童生徒の自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心に、「11条のネットルール」作り、目安箱設置・啓発標語によるいじめをなくす取り組み等、自治的活動を保障し進めた。 ・児童会では、児童会行事を年間2回実施し、企画運営力を培った。 ・運動会縦割り種目、縦割り班遊び等を通して、異年齢集団の自主的活動に取り組み、高学年のリーダー性を養った。
体：健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業では、体力テストの課題克服（走の強化）を実践し、全国体力テストでは男女共が50m走で全国平均を上回った。 ・運動会、マラソン、縄跳びの取組では、全校や縦割りでの練習を有効活用し、児童の身体と心の育成を図った。 ・東員縄跳び検定では、のべ37名のボランティアさんの協力を得た。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAと連携して年間3回の生活習慣見直しウィークの取組を実施し、朝晩歯磨き97%、早寝早起き89%、毎日朝ご飯99%となった。 ・学校歯科医によるブラッシング指導や歯磨きカードの取組を通して食後の歯磨き習慣の定着を図った。 ・給食指導、食育の指導を実施し、食の意識が高まった。
信：信頼される学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・三世代交流餅つき大会をはじめ、地域の方々との交流活動を行い、地域と共に歩む学校づくりの一環となった。 ・保護者と児童アンケートを実施し、その結果を分析しいかした。 ・年度末活動総括と学校自己評価を実施し、PDCAを確立した。 ・学校評議員会を年2回開催し、様々な視点からの意見を頂いた。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全ボランティアによる下校見守り活動を実施した。 ・PTA交通当番活動の実施により、無事故で安全な登校ができた。 ・避難訓練2回、引渡し訓練1回、防災教室各1回を実施した。 ・学校でのけがや病気について速やかに対応し、保護者への連絡や説明も適切に行った。首から上のけがは、原則病院で受診した。

学校関係者評価委員意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が様々な取組や手立てを講じ、細やかに実践をしてもらっていることがよく分かった。 ・ネットルールを子ども自身で作る等、子どもらしい発想をいかした児童会活動となっていて感心した。 ・一人ひとりを極め細やかにみもらえる少人数授業はこれからも是非続けてほしい。 ・あいさつの取組が幼保小中の垣根を越え交流できていることが素晴らしいので、継続していただきたい。 ・「学校が楽しい子」割合が高いが、そうでない少数の子どもに今後も目をかけてもらえるといい。
---------------	--

令和元年度 稲部小学校 学校自己評価書

学校経営理念：稲部の3I=Insight(内面の成長) Intention(意思ある子ども) Integrity(素直さ)

学校教育目標：やさしく たくましく 知性豊かな子の育成

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状(到達状況・改善方策等)
知： 確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間の学習 ・東員学び検定 等	3	「とういん学び検定」は全員合格できた。「漢字にトライ・計算にトライ」では定着率が96%と92%だった。基礎基本の反復を重視した。保護者アンケートのこの項目では93%が肯定的に回答していたことから、基礎基本の学習が定着していることが分かる。定着がさらに進むように、学年末まで習熟に取り組む。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析 ・研修会・公開授業	4	学び合いの深まる課題により相手の考えと較べて聴き、友だちの「分からないさ」に寄り添って考えられるようになった。ペア班全体の学びの中で友だちの話を丁寧に聴くことを大事にした。三重大学岡野教授を招聘し「聴き合い学び合う授業」研究に努め自主公開研究会を実施。他校の研修・研修講座に参加した。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導	3	4月学級懇談会で「家庭学習のすすめ」を配布し家庭学習の仕方や継続して取り組むことの大切さを啓発。家庭学習は90%定着している。毎日の取り組み状況を担任が把握し保護者と連携して指導・助言することでさらに定着を図っていく。10分×学年は88%定着している。自主学习も意欲的に取り組めた。
	読書の意欲向上	・朝読書の習慣 ・読書登山の取組 ・読書活動の取組 等	3	毎学期の図書イベントでは達成率が90%を超え読書をする意欲づけになった。学校図書館専門員による読書指導で授業で本を活用する機会が増えた。読書登山の達成者は65人になり全校の前で表彰されることで自己肯定感を高めることができた。読書登山の本だけでなく自分の好きな本に出会い本を買って読む子が増えてきた。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	・「教科道徳」の充実 ・各教科、領域との関連 ・重点項目の取組	3	「特別の教科 道徳」では、教科書に沿って取り組めた。今年度の重点項目「思いやり」についても共通認識を持ち、授業を推進できたが、まだまだ日常生活の中で活かされている姿が弱い。さらに学援との交流を継続して、障がいについての理解を深めた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画やカリキュラムの策定 ・「いじめ防止基本方針」の充実 ・特別支援教育の充実 等	3	全校で「きらりカード」を取組、学級の友達以外に異年齢の友達の良さに目を向けることができた。全校討論を自分の事としてとらえられるように「虹いろ宣言」「できたねカード」の取組を行い、きまりについて考えた。年3回研修会を行い子どもの姿を交流と必要な手立てを検証し実践した。カリキュラムを立て計画的に道徳の授業を実施した。人権月間ではそれぞれの学級の子どもたちの姿に基づいた授業を実践することができた。
	コミュニケーション力の向上	・QU調査・分析の実施 ・挨拶の取り組みと定着 ・約束やルール徹底	3	QU調査の結果を毎学期分析し、全職員で情報共有を行い、指導・支援に活かしたり、有効な手立てを学び合い、学級づくりを見直したり出来た。日常生活の中で、教師間で約束やマナーについて統一した指導を心がけ、児童の意識も向上した。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、委員会活動 ・縦割り班活動 等 ・クラブ活動	3	子どもがアイデアを出し創意工夫し活動を行った。虹いろ宣言やなわとび大会等新たな活動ができた。あさがお大会運動会では6年が全校が笑顔になれる全校競技の内容を考えた。学期末と毎週水曜日の下校時に通学班集会を開き班長が中心となって振り返り自らよい関係づくりに取り組んだ。
体： 健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施 ・東員縄跳び検定の実施 ・あさがおタイムの取組	3	体育環境委員会があさがおタイムを企画し全校や縦割り遊びを実施。なわとび検定の目標達成に向け地域のシニアクラブの方に支援をいただき集中期間を設け取り組んだ。運動能力の向上や運動に対する思考判断力を育む話し合い活動を取り入れ授業改善に取組んだ。運動プログラム等の研修を実施した。
	保健教育の推進	・健康教育の推進 ・保健指導の実施 ・保健たよりの発行	3	チェックシートを用いて取り組むことで生活習慣を振り返ることができた。歯と口の健康を守るための知識と習慣づけの保健指導を行った。保健委員会の活動で昼食後の歯みがきや外遊び後の手洗いを呼びかけた。食べ物に関するアンケートを行い給食や食べることに興味を持てるようにした。
信： 信頼される学校	開かれた学校	・マニフェストの公開、自己評価の実施 ・評価委員会の開催 ・地域との連携	3	学校便りは30回発行できた。保護者アンケートの「学校の様子がわかる」項目においては、90%以上の肯定的回答を得ることができた。アンケートを実施しその分析と学校自己評価書とを鑑みて今年度の評価を発信した。学校評議員会や関係者評価委員会を開催し結果の公表と意見をいただいた。
	安全・安心な学校	・安全教育、教室の開催 ・訓練の実施 ・けが、病気への丁寧な対応	3	多くのボランティアに協力により安全確保ができた。怪我病気は保護者との連絡を丁寧にできた。インフルエンザ対応も迅速に行い流行を抑えた。情報管理は個人情報漏えいなく法令遵守を意識できている。災害の訓練を定期的に開催しマニュアルについて見直し確認を行っている。

学校関係者評価委員意見より	委員より、いじめと不登校についての質問があった。本年度3件認知し学校体制で取り組み解消に至ったことや未然防止の取り組みについて等説明した。また、不登校については関係機関としっかりと連携し改善に向けて丁寧に取り組んできたことを説明した。いずれも、委員から理解と評価を得られた。 学力向上・授業改善については、本校の研究活動を高く評価して頂き、委員の意見により評価4をつけることとなった。また、こうした研究活動の充実本校の「働き方改革」の成果であることを説明した。今後、「職員の生活と健康のため」、「職員が授業研究と子どもと向き合う時間を創出する」ためにという明確な目的を持って、「働き方改革」を学校経営方針の柱とすることを、委員から支持していただいた。
---------------	--

令和元年度 神田小学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：知・徳・体の基礎を育み、学びに挑戦する子どもをめざして

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知：確かな学力	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査等の結果、ほぼ全ての学年の教科が全国平均を上回った。 ・全職員で分析した「強み・弱み」にもとづいて、学力を高めるために、多くの問題に取り組ませた。 ・問題の解き直しに取り組ませ、苦手な単元も集中して学習させた。 ・得られた成果を全職員で共有し、授業改善を進めた。
	算数少人数指導による学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学び重視型算数少人数指導の実施 ・補充学習の充実ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導により、学習意欲と学力が向上した。 ・じっくりコースとぐんぐんコースの成果率90%を多くの単元で達成し、全体の学力を向上させた。 ・算数教室を設置して、低学力層への対応を進めると共に、自主的な学習を促進し、D層10%以下を多くの学級で達成した。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会が年間2回の図書館イベントを実施したり、貸出目標や読書登山の学年目標を設定して、読書意欲を高めた。 ・学校図書館支援事業の「読み聞かせ・ブックトーク」等を活用し、各学年が学期1回以上、授業に図書室を活用した。 ・一人あたりの貸出冊数が、48.6冊と多読の取組が維持できた。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の作成 ・特別支援教育の研修 ・他機関等との連携ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、個別の指導計画を作成し、保護者との共通理解を図った。 ・特支学級の授業を公開し、特別支援教育について「自立活動」の研修を深めると共に、各学級で生かせる指導を学んだ。 ・巡回相談の指導助言の活用や聾学校との交流も進めた。 ・校内特別支援委員会で研修を深めた。
徳：豊かな人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画にもとづいて35時間以上を確実に実施した。 ・児童会が作成した「神田小ネットルール」を活用した。 ・ネットいじめは発生していないが、対戦型ゲームに傾倒する姿が聞かれ、更にネットモラル等について意識を高める必要がある。また、相手の気持ちを思いやる取組をさらに進める必要がある。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進計画策定 ・ソーシャルスキルの育成 ・Q U調査の活用ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画とカリキュラムを作成し、全教育活動を通して推進した。 ・6年生においては、人権フォーラムを契機に他校の実践に学び、自校の取組を高めることができた。 ・毎月曜日に定例化して、各学級でS S Tに取り組んだ。 ・Q U調査の分析をもとに、個への対応と仲間づくりを進めた。
	児童生徒の自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会行事・運動会全校種目・児童会活動等の企画運営を通して、児童のリーダー性を育てた。 ・児童会の『あいさつするンジャー』が全校に提起する活動を通して全校で「あいさつ運動」に取り組み、あいさつの声を増やした。
	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ不登校の早期対応 ・縦割り班活動等 ・部活動等ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや保護者との連携、児童の見守りによって、いじめの早期発見に務め、初期に対応して解決を図った。 ・縦割り行事や運動会全校種目において、異年齢集団の取組を通して「勤勉性」を高めた。
体：健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力テスト」は、男子で8種目中5種目、女子で8種目中4種目が、三重県平均を上回った。 ・目標未達成の児童に「特別水泳」を実施し、泳力を伸ばした。 ・「東員なわとび検定」は、全校統一して体育の授業や冬休みの課題に位置づけて、意欲的に体力向上に取り組んだ。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導として、全学年に「歯磨き」「手洗い」を指導した。給食後の歯磨きが定着している。 ・感染症の流行時に、手洗いやマスクの重要性を啓発し実践した。 ・年2回の発育測定を機会に、「健康」について指導し、自分の身体について関心を高めた。
信：信頼される学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のようすを見られた学校評議員に、学校関係者として、教育活動全般や学校自己評価書について、意見をいただいた。 ・学校関係者（学校評議員）の意見を改善活動に生かし、教育活動を一層充実させている。 ・児童と保護者にアンケートを実施し、学校経営の改善に生かした。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・けがや病気には、迅速かつ丁寧な対応を心がけた。 ・「防犯教室」を実施して、児童への安全指導の充実を図った。 ・安全ボランティア（約160名）の協力を得て、学校・地域・保護者の3者が連携し、児童の安全をはかった。

学校関係者評価委員意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・止まってくれた車にお辞儀をして感謝の気持ちを表してあいさつをする姿が神田小の特徴となっている。→あたたかいまちづくりをめざして、地域でも家庭でも学校でも、あいさつを指導していく。 ・学力の向上（二極化解消）をめざしてD層10%以内を目標に、「少人数指導」や「学び合い」に取り組んでいる。→新学習指導要領のめざす方向で取り組む神田小の実践は、確実に成果が表れている。 ・「ネット」や「ゲーム」に左右される子ども達の就寝時刻が心配である。→保護者の意識を高める。
---------------	--

令和元年度 笹尾西小学校 学校自己評価書

学校経営理念：学力向上と非認知能力（G R I Tを含む）の育成を図り、信頼される学校づくりを行う。

学校教育目標：自ら考え 行動する子

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> わからないことを「わからない」と言える学校環境作りをする。 合格点に達しない場合は、再度復習を行う。 朝学習の充実する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 市販のテストに於いて、国語・算数を合わせて、90%以上になり、目標を達成することができた。 朝の学習は毎日実施した。 「東員町学習検定」の合格者が100%（再テストを含む）を達成した。
	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき、「学びの共同体」の研修を実施する。 算数少人数授業の実施する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 元三重北小学校校長 岡本先生や北勢教育事務所の中村先生の指導をうけ、研究授業において、具体的な子どもの姿をもとに研修を行うことができた。11月には、自主公開授業も行い、より多くの方に学ぶことができた。 少人数教育では、打ち合わせの時間を設定して、授業の進め方を統一し、系統的な指導を行い学力向上を図った。
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の内容や目安の便りを配布する。 学期に1回、家庭学習強化週間を実施する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を各学年の目標時間通り取り組めた児童96%であった。 今後も日頃から学習時間を意識するように児童に伝えたり、保護者への啓発を大切にしていこう。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の推進する。 図書支援員の積極的な活用を行い、読み聞かせ・調べ学習の充実を図る。 読書登山読書週間を設定し、取り組みを進める。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習強化週間の10分以上読書する児童は82%だったが、学校教育アンケートで「家でよく本を読む」は、55%だった。 図書支援員の協力により、教科書にのっている本のコーナーをつくった。 読書登山週間に年間3回設け、朝読書で全員が読書登山の本を読んだ。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 本年度から実施の「特別な教科 道徳」の教員研修を行う。 学年に応じた計画を作成し実践する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 道徳年間計画を作成し、計画的に進めている。 道徳の先進校に研修に行き、学んだ。 年度末に、カリキュラムの見直しを行った。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体計画及び年間計画を作成する。 人権教育カリキュラムを実践する。 Q U調査を学期1回、年間3回実施する。 いじめの早期発見・早期対応 	3	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体計画及び年間計画を作成し、すべての教育活動の中心に据えた人権教育実践を行った。 「校内人権週間」を設定し、集中的に人権について考える機会を設けた。 Q U調査を行い。全教員で共有化する研修会を行った。 命を大切にすることを育てるために、「三重県いじめ防止条例」や「東員町子どもの権利条例」の学習を行った。
	コミュニケーション力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとの関わり方や自己肯定感を高めるための授業を実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にソーシャルスキルトレーニングを実施し、関わる力の育成を図った。 日常的に聴き合う関係作りを大切に実践をした。
	児童生徒の自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、児童会による挨拶運動の実施する。 縦割り班活動【縦割り班遊びや運動会の縦割り班競技】の実施する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自主性を大切にしながら、アドバイスや見守りを全教職員で行い、6年性のリーダーシップを高めた。 毎週金曜日になかよしタイムをもち、縦割り班遊びを行い、異年齢集団の育成を図った。
体： 健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全校で体力・運動能力調査を実施する。 基礎的な運動の到達度を調査し集約。指導に生かす。 東員町のなわとびカードを利用し、全校で取り組む。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくりチェック（目標達成全校75%）に取り組んだ。 体力・運動能力調査を行い、昨年度の数値を上回った。 「東員なわとび検定」は、昨年度の反省から指導法の改善を行い、取り組んだ結果、1級到達度は、自校の目標とした2年70%以上、4年50%以上、6年30%以上を大きく上回った。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 保健教育の年間計画を立案する。 栄養教諭と協力し、食育指導や給食指導を全学年で実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 給食後、校内巡視を行いながら、歯磨き指導を行った。 自分の将来の健康を保持増進するためだということに基づいて食育・保健指導・給食指導に取り組んだ。 年間3回、生き生き生活リズムの取り組みを行い、規則正しい生活作りを行った。
信： 信頼される学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民などの学校関係者の意見や評価を受ける。 応援隊の協力を依頼する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員・学校関係者評価委員会を年間2回ずつ実施し、ご意見やご助言をいただいた。 学校アンケートの実施ならびに学校評議員・学校関係者評価委員による評価を受けた。 応援隊・ボランティアに協力をいただいた。 地域サポーターに午前週2回、放課後補充学習週2回来ていただき、昨年以上に地域との連携を深めた。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> 下校パトロールを継続実施する。 交通安全教室、防災訓練、引き渡し訓練を実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様、PTAによる登下校のパトロールを行い、児童の安全を図った。 年に1回、引き渡し訓練、交通安全教室、防災訓練を実施した。

学校関係者評価委員意見より

・教師は、子どもにわかりやすい言葉を使い、指導を行っていることがわかる。
 ・顔を合わせると、きちんと頭を下げあいさつができる児童が育っている。（学校外でも）
 ・環境整備がしてあり、清掃などもきちんと行われていることがわかる。
 ・学校が情報発信を適切に行い、問題に対しても早期発見・早期対応をしている。
 ・地域との連携が密接に行えているので、子どもたちも地域の行事に参加してくれる。
 ・読書に課題はあるが、家庭での読書の在り方を啓発していくことと、幼稚園・保育園との連携を密にして、読み聞かせを好きにすることからはじめてほしい。

令和元年度 笹尾東小学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：自ら学び、関わる力を育てる

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定 ほか	3	・朝学習では、国語を中心に取り組んだ。他にも漢字学習や東員学び検定など短い時間に集中して取り組めるように工夫し、継続した。 ・漢字博士大会当日の正答率は95%を超え、その成果を出せた。 ・単元ごとに「ジャンプコース」と「ホップコース」への希望をとり自ら学ぼうとする意欲を育てる算数少人数の編成を行った。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・すべての学級において、年2回の研究授業を行った。「学び合い」の授業スタイルの統一に向けて取り組み、一定の成果を得た。 ・学校評価アンケートの「授業がわかる」の項目において、90%と高い数値を得るなど全体としては、目標を下回るものもあったが、多くの取り組みにおいて、概ね達成できた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・家庭学習の手引きを作成・配布し、保護者にも協力を呼びかけ、共に定着を図った。 ・学校評価アンケートの「家庭学習（宿題）に忘れずに取り組む」と思う児童は94%である。「忘れずに取り組む」ということについては、どの学級でも忘れてくる子はほほいしない。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	2	・保護者ボランティア、はつねの会、図書支援員による読み聞かせや本の紹介を月2回以上行うことができた。 ・「読書が好きである」と答えた児童は76%と昨年度より減少した。 ・読書登山では目標達成に届かない児童もいるため、より意識した読書活動を進め改善して行く必要がある。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・岐阜聖徳学園大学の河合宣昌先生を招き、道徳授業の1時間の流れを全員が共通理解し、道徳カリキュラムに沿った指導を行った。 ・道徳の時間以外にもあらゆる教育活動を通して、児童の心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを意識して、指導を行った。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・人権教育推進計画及び各学年の年間計画を策定し、これに基づいて取り組めた。 ・人権週間は、全校共通の取り組みと各学級の実態に応じた取り組みを行った。 ・特別支援教育推進委員会を定期的に開催した。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・QU調査の分析を行い学級づくりを進めた。交流会では、全職員が児童や学級の様子を共通理解し、指導に生かした。 ・SST、ほめ言葉のシャワー、学級遊びなどを目標通りに行い、仲間づくりを進めることができた。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	3	・月1回の児童議会の中で、児童会目標を立て、どのようにすれば目標を達成できるのか、話し合うことができた。 ・縦割り班遊びは予定通り行った。遊びの後は、必ず反省をし自分たちの姿について見直すことで次の遊びにつなげることができた。 ・全校集会の場で、委員会の取り組みを発表した。
体： 健やかな 体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・5月実施の新体力テストの結果は、総合評価C以上82%と目標値を上回ることができた。 ・年間計画で、プール実施期間に水泳の授業数を増やした。学年別目標の達成率は、72%であった。 ・東員なわとび検定では5級達成が79%であり、目標をやや下回った。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・保健指導計画に沿って保健学習を実施した。 ・昼食後のほみがきは毎日実施した。 ・基本的な生活習慣作りでは、長期休み中の健康貯金を年に2回実施した。また1月にノーメディアをめざす取り組みを実施した。 ・食育指導は、給食センターと連携し、各クラス1回ずつ実施した。
信： 信頼される 学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	3	・学校評価アンケートの結果を公開し、現状の周知を図った。 ・学校評価アンケートで「学校の様子がわかる」は94%であった。 ・学校評価アンケートを実施し、結果と学校改善について保護者・地域へ発信を行った。 ・7月と3月に関係者評価委員会（評議委員を含む）を開催した。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	3	・防災マニュアルの見直しを行い、それぞれの訓練を実施した。引き渡し訓練は幼保・学童と連携して実施した。 ・下校安全ボランティア会議を月1回開催し、子どもの安全な下校について話し合い、連携を図った。 ・子どもの怪我や病気については、適切かつ迅速に対応できた。

学校関係者評価委員 意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね妥当な評価がされており、その成果が見られる。この評価結果をもとに、PDCAサイクルを回し、改善に努めて欲しい。 ・昨年度に引き続き、読書指導についての評価が低い。現状や手立てはどうか。 ・東員子どもの権利条例を子どもたちが学習していることは分かったが、大人にも周知することが必要。 ・子ども一人一人が独自の力を伸ばす時間が必要だと感じる。個性を伸ばすことを大事にして欲しい。
-------------------	---

学校経営理念：子どもが主役の学校 ～児童が来なくなる学校・保護者が通わせたい学校・職員が勤めたい学校～

学校教育目標：仲間とつながり 高め合う子

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の習得 ・東員まなび検定 ほか	4	・「話し方名人」「聞き方名人」を活用し「わからない」と言える教室をめざした。「分かりやすい説明の仕方」「聞く時の反応」「自分の出番」を重視し、「児童が主役となる」対話的な授業を創造した。 ・全学年の算数で少人数授業を実施し、11月IRT学力調査の結果では、平均で全国比112.3で全国より高く、大きな効果をあげた。 ・東員まなび検定は1回目平均97点で、99%が合格した。 ・英語の教科化に向け、専任教員が、3・4年生はALTと外国語活動、5・6年生は週2時間(ALT週1)英語教育を行った。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	4	・各学力調査の結果分析を行い、D層の支援と授業改善に生かした。 ・「みんなが主役の授業」とは具体的にどのようなことをめざしているのかということをご各クラスで話し合い提示し、互いの授業を見合い、メッセージを贈りあうことで児童自身のめざす授業像を明確化した。 ・「ふらっと研修」の期間を設けることで、更に授業研修の日常化を図ることができた。 ・全学級提案授業を年2回行い、主体的に対話的で深い学びにつながる授業、児童が主役の授業のあり方を探求し、学力向上につなげた。 ・研修2年目の節目として11月に公開授業研究会を行い、一定の評価を頂いた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・「家庭学習の手引き」を作成・配付し、家庭と共に定着を図った。 ・家庭学習強化週間を各学期1回実施し、現状を見つめ直す機会にした。 ・家庭学習は、家庭の意識の差が伺える。家庭学習の具体的な方法等の家庭への啓発や個別の支援が必要である。家庭学習の習慣化は学力向上に不可欠なため、一層の取組を図る。 ・ノートで学習できる児童を目指し、丁寧な指導と、手本になるような児童のノートをコメントと共に掲示し取り組んだ。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	3	・朝の10分間読書を毎日確保し、児童が本に触れる機会を増やした。読書登山の取組を更に推進したい。 ・図書委員会の図書スタンプラリーや読み聞かせ等の活動や、図書館専門員（リブネット）の活用、貸し出し方法の簡略化により、図書室の利用児童が以前よりは増加しているが、更に取り組みを強化したい。 ・図書委員会が企画する朗読や、本を紹介するビブリオバトルで読書に興味を持たせていきたい。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	4	・全体計画・年間計画を基に全教育活動を通して指導し、道徳的心情を養った。 ・人権・命・平和の教育は他教科との関連学習を全学年で実施した。 ・道徳の教科化に伴い「考える・議論する道徳」を目指し、研修を行い推進した。 ・11/18～の人権週間には、人権の授業（道徳）及び学級見直しを行った。 11月の授業参観では、全クラスで道徳の授業公開を行った。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・人権週間で人権の授業参観を実施し、保護者への啓発を行った。 ・年4回のいじめ調査を実施し、実態把握と迅速な対応を行った。 ・「東員町子ども権利条例」を、各学年の発達段階に応じ学習した。 ・特別支援教育の研修を行い、児童理解と支援のあり方について学び、必要な支援を行った。巡回相談、スクールカウンセラー、発達支援室、町民課等と連携を図った。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・週一回SSTの取り組みを行い、児童のコミュニケーションスキルや社会性の育成を図った。 ・年間3回のQ-U調査を実施し、実態把握と仲間づくりを進めた。（研修の充実） ・児童会や有志が、あいさつ運動に取り組んだ。自分から進んであいさつができる児童を育てたい。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会活動 ・縦割り班活動等 ほか	4	・全校活動や委員会活動を通して、高学年のリーダー性や自主性を育てた。上級生の姿が下級生の学びに繋がり、児童から児童へと浸透している。 ・運動会の縦割り種目や応援、縦割り班遊び等を通して、異年齢集団の自主的活動に取り組む、高学年のリーダー性や企画運営力を培った。 ・児童会を中心としたあいさつ隊によって、全校にあいさつを推進した。
体： 健やかな 体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・体育の授業では、運動量確保に留意し、全国体力テストでは男子は4種目(上体起こし、前屈、反復横跳、ソフトボール投げ)、女子は全種目全国平均を上回った。 ・運動会、マラソン、縄跳びの取組では、全校や縦割りでの練習を有効活用し、児童の身体と心の育成を図った。 ・東員縄跳び検定は、34人のボランティアの協力で、はずみをつけて実施できた。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・年3回の生活習慣の取り組みと、日常的な保健指導や児童委員会の働きかけにより、1日3回の歯みがきや、丁寧なブラッシングの定着ができた。 ・計画的かつタイムリーに保健便りを発行した。 ・メディア2時間以内を守れた児童が1学期59%から2学期75%に向上した。今後ルールづくりを呼びかけたい。 ・給食指導、食育、弁当作り（6年生弁当の日）等を指導し、「みえ地物一番給食の日」には、放送で5年生が全校にクイズを出しみんなで考えた、みえ地物について関心が高まった。
信： 信頼される 学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	4	・保護者と児童アンケートを実施・分析し、改善、取り組みに活かした。 ・年度末活動総括と学校自己評価を実施し、PDCAを確立した。 ・学校評議員会を年2回開催し、様々な視点からの意見を頂いた。 ・地域との絆行事をはじめ、合唱祭等、地域・保護者の方と触れ合う取り組みを推進した。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気への適切な対応 ほか	3	・地域の協力により交通安全教室を開催し、自転車点検の方法を学んだ。 ・学校安全ボランティア(52人)を組織し下校見守り活動を実施した。 ・PTA交通当番活動の実施により、安全な登校ができた。 ・避難訓練2回、引渡し訓練1回、防災教室(4～6年)各1回を実施した。 ・学校でのけがや病気について速やかに対応し、保護者への連絡等、適切に行なった。首から上のけがは、原則病院で受診した。

学校関係者評価委員
意見より

- 1 「みんなが主役の授業」は児童にとって成果があり、引き続き推進されたい。
- 2 学校は一生懸命取り組んでいるので、児童も成長できている。
- 3 評価が細かい項目毎ではないので、弱点を絞って明確にしてはどうか。
「家庭読書」と「自分からのあいさつ」の2点をあげてはどうか。
- 4 相手の気持ちを考えられる児童になるよう、引き続き取り組まされたい。
- 5 引き続き保護者と担任の連携をより深めて、指導にあたって頂きたい。

令和元年度 **東員第一中学校** 学校自己評価書

学校経営理念：生徒が主役 地域と共に成長する学校

学校教育目標：自主・自立・自律 ～自らの未来を語る生徒を育てる～

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習	4	・全学年で5教科小テストで帯学習ができた。班の形を基本としており、わからない問題があったらすぐに他者に質問できるようになっている。アンケートでは、多くが「8：20の時点では6人班の形が良い」と回答している。 ・生徒の困り感をつかむために、玉置崇教授に年間4回来校していただき、研究授業を行った。生徒の質問をすべて教師が答えるのではなく、生徒へ戻し、生徒の考えを繋いでいくことの価値と具体的な方法を学んだ。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・学調、IRTの結果を受け、学校体制で弱みと強みを分析し授業改善を進めた。 ・弱みを克服する手立てを具体化するために、教科部会の充実を図る。 ・授業アンケートより小集団での学び合いに価値を感じる生徒が増えている。また、活動時間の割合を「生徒：教師＝8：2」をめざし、生徒の思考時間を大切にできた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・自主学習ノート、進路に向けたテキスト学習ともに提出状況や内容を確認し、効果的に進めることができた。 ・家庭での学習量などが適切であるか今後とも考察を継続させていく。 ・自主学習ノートの内容が充実したものを紹介するなど、効果的な学習について啓発を行った。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	2	・読書登山への新たな取り組みとして、学級文庫に読書登山の本を置くなどの工夫をした。今後は、家庭での読書習慣充実の方策も探る。 ・校内図書館の貸し出し冊数は向上が見られるが、まだまだ目標に達しない。図書館ボランティアの導入も視野に入れ、充実を図りたい。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・道徳の教科化に伴い、教科書を用いて「考え、議論する道徳」が成立するように、効果的な発問を精選した。 ・同じ教材を使って全員が発問を練る研修を行うなど、授業力向上に努めた。 ・人権週間を12月に設け、身の回りにおける人権問題に目を向け、自分たちの問題として考える契機とした。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・人権教育カリキュラムに沿って人権教育を進めるとともに、子どもの実態、学校行事の精選などに合わせてその見直しを行った。 ・東員町子どもの権利条例の学習を通じて、子どもたちの人権に対する考えを深めることができた。 ・いじめ基本方針の見直しにより、学校体制での取り組みを強化した。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・年3回QU調査を実施し、結果の分析研修を充実させ、学級経営や個々の生徒への具体的な支援につなげた。これにより、どの学級でも一学期よりQU調査の結果が改善された。 ・生徒会生活委員会のあいさつ運動が継続的に実施できたが、アンケートの結果は、わずかに下がっている。生徒の主体的な取り組みを進めるとともに地域家庭にも呼びかけていくことが大切であると考えている。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	3	・リーダー・フォロワーの育成のねらいやあり方について統一した方向性を示すことで、教職員間での共通理解の下、取り組みを進めることができた。 ・リーダー性を育てるために、事前にHRのシュミレーションを行うことができた。 ・QUの結果を生活指導部や研修推進委員で交流するとともに、外部講師とも連携して、集団作りに実践とフィードバックをさせることができた。
体： 健やか な体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・強制ではないが、部活動に91%以上の生徒が加入している。生徒の部活動の満足度は91%と高い。 ・スポーツテストを実施し、結果を生徒一人ひとりに渡して弱点を伝え指導している。 ・体育の時間、準備運動の後に種目にあった補強運動を行っている。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・いなべ総合病院の川村先生を招いて命について考える講演会を開催した。 ・保健だよりの定期発行、保健室の整備を推進した。 ・健康面の保護者の満足度は97%と高い。さらに、感染症や食物アレルギーなどへの対応の職員研修を充実していく。
信： 信頼 される 学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	4	・学校だけを毎週発行すると共に、生徒の「プリント配り隊」を組織して学校関係者へ学校の様子を定期的に発信した。 ・学校評議員会を年3回、関係者評価委員会を年2回、また授業参観及び公開研究会にも関係者の方々に参観をしていただいた。 ・アンケートによると学校の意図やねらいが保護者の95%に理解されている。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	3	・サイバー犯罪の専門家篠原先生の継続的な指導をいただき、保護者や地域にも発信することができた。 ・交通事故0を目指し、取り組んだ。命に関わる大きな事故はなかった。さらに地域や保護者と連携し学校体制での指導を徹底していく。 ・怪我や病気だけでなく災害時等の様々な保護者や地域の声について、どの職員も相手の立場や置かれている状況などをくみ取る努力する対応(福祉的対応)を今後も大切にしていきたい。

学校関係者評価委員 意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・表現する力、自分の意見を発表する能力がすばらしく向上していると思います。 ・表現する側だけでなく、相手の意見や気持ちを受け入れる力が備わっているといつも感心しております。 ・地域とのつながりを大切にいただき、うれしく思っています。きめ細やかな家庭や地域への情報発信を学校だよりやメール配信で行っていただき、先生がたの想いが、ご家庭に届くことを願っています。 ・小学校でのあいさつ隊の取り組みに参加し、中学生の姿や言葉から学ぶことが多く、小学生の手本となり、憧れの存在になっていると思います。あいさつの輪が地域全体に広がると良いと思います。
-------------------	---

令和元年度 東員第二中学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体・バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：知性豊かで、ひびきあい、喜び合い、ねばり強くやりぬく生徒を育てる

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定 ほか	4	・各種調査において、概ね全国・県平均を上回ることができた。 ・朝学習や放課後学習、定期テスト前の二ertime、基礎学力の定着・向上を図るための取り組みを継続して実施することができた。 ・少人数指導では、習熟度別指導を行うなど、学力層Dの割合を減らす取組を行うことができた。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・I R Tやみえスタディチェック、全国学調などの結果について、詳細に分析し強みや弱みを把握するとともに、授業改善、教材開発、定期テストの工夫などに努めた。 ・全教員が授業を公開し研修を行うと共に、今年度も継続して主体的に課題に向き合うために「私らしさが溢れる授業づくり」を継続した授業づくりに努めることができた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・基礎学力の定着・向上のために、課題（宿題やテキスト）を出し、丁寧に点検をおこなうなど、家庭学習の定着に努めた。 ・家庭学習ができない生徒や課題提出が出来ない生徒については、個別指導をねばり強く行った。 ・家庭学習の量等については、個に応じた配慮を行った。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	2	・朝読書については、日常的に実施することができたが、家庭での読書習慣に結びつけることはできなかったことが、学調質問紙などから明らかになった。 ・生徒会図書委員会を中心に貸し出しなど、読書週間が身に付くよう工夫したが、時間的な関係から難しかった。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・教科化の実施に伴い、22項目35時間を目標に取り組みを進めた。全教師が授業を受け持つなど、全教師で取り組めた。 ・視聴覚教材を含めて教材（資料）開発に努め、生徒の実態に対応して教材選択が行うなど、I C T化による教材の蓄積を図った。 ・年間計画に基づきつつ、学校行事や学級の実体に応じて、道徳の指導内容を工夫しながら取り組むことができた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・年間計画に沿って、人権学習に取り組むことができた。 ・日常の学校生活や教育活動・行事を通じて、「人権」を尊重した生き方が出来るよう努めた。 ・いじめをはじめとする人権を侵害する事案が少なからずあった。情報収集及び交流を欠かさず、生徒に常に寄り添いながら、ねばり強く解決に向けて取り組んだ。
	コミュニケーション力の向上	・S S Tの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・P T Aの活動と運動して、生徒会であいさつ運動「おはようT u e s d a y」を計画的に実施することができた。日常生活の中でもよくあいさつができています。 ・定期的に実施するQ・Uについて、その結果を分析し学級づくりに活用することができた。また、学校全体での情報交流・研修を行うことができた。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	4	・体育祭、合唱祭など生徒会が主体となって取組、集団としての成長が見られた。特に、上級生がリーダーシップを図り、縦割りの活動を多く取り入れる事で集団としての力が高まった。 ・日常の委員会活動においては、給食や掃除、授業への取り組みを積極的に実施し、充実したものにする事ができた。 ・限られた時間の中での部活動であるが、充実した活動ができた。
体： 健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・体力テストの結果から、課題も明確になり、基礎的な体力向上を今後も継続的に行っていく必要がある。また、今年も、全校縦割りで上級生が手本を見せながら意欲的に行うことができた。 ・体育の授業、部活動を通じて体力の向上に努めた。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	4	・年間通じて、生徒の心身の発達や健康について留意した活動を行うことができた。アレルギー対応も丁寧に行うことができた。 ・食育年間計画を職場全体で見直すことができ、家庭科教師及び担任とのコラボ授業を行うことで意識の向上を図った。 ・季節や時期に応じて「保健だより」を発行し、健康保持のための啓発をおこなうことができた。
信： 信頼される学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	3	・年間の計画通り、各種調査を実施した。 ・学校自己評価を行うことで、継続的な改善活動をおこなうことができた。 ・学校評議員会を予定通り開催し、広く意見を聞くことができた。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	4	・計画的に、交通安全教室や防犯・防災教室、訓練を実施することができた。 ・スマホに潜む危険性を、講師を招聘し2回実施した。今後も繰り返し指導していく必要を切に感じている。また、今年も、生徒会を中心にSNS使用について各行事時に、保護者にも呼びかけを行った。 ・怪我等に対しては、適切な対応ができた。

学校関係者評価委員意見より

◎部活動指導で外部の人材を活用してはどうか。指導にあたっては、謝金もあるとよいのではないかと。 * 勤労体験学習などでも良い取り組みであり、なくなっていくことの寂しさがある。行事を精選していくことに、地域や保護者からご意見もあるのではないかと。ただし、学校の現状も考えると仕方ないとも考える。

◎*「なぜ、たよりをみせないか」子どもの目線で考えてみることもや実状を把握することも大事ではないか。しかし、親が子どもにも見せるように言ってもなかなかそのようにしない現状もあり、難しいところである。

◎*英語科の授業で、コミュニケーションがとれていて、学び合いがあり、スタイルが確立されていてとても良かった。答えも1つではなく、このような意欲的に参加できる授業がよいと感じた。 * 家庭学習は学校から離れた部分であり、親の責任で行うことというように感じる。 * 子育ての力が落ちてきていると感じる。園では保育士が親がわりのようなことをやっている現状がある。

◎*小学校からの縦割り活動が、中学校でさらに花開いていると感じる。体育祭でのソーラン、集団としてのまとまりなど、どれも素晴らしい。 * 3年生がリーダーシップを発揮し、それが毎年しっかりと受け継がれている。二中には良い教師がいる。 * 教師が生徒を信じ、それに応える生徒という関係が、しっかりできていると感じる。

資 料 編

目 次

	ページ
1 教育委員会の審議内容（議案）	1
2 教育委員会の審議内容（報告）	2
3 教育委員会の審議内容（後援）	3
4 令和元年度 児童・生徒・園児数、学級数	4
5 児童、生徒数の推移	5
6 令和元年度 教職員数	5
7 学校教育施設の状況	6
8 学校教育施設一覧	6
9 社会教育施設一覧	7
10 指定文化財一覧	7
11 社会教育施設の利用状況	8
12 図書館の利用状況	9

1 教育委員会の審議内容（議案）

番号	件名	提出年月日
1	令和元年度東員町教育予算（一般会計補正予算第2号）について	令和元年5月20日
2	東員町奨学金の給付について	令和元年6月21日
3	平成30年度東員町教育委員会事務事業点検・評価報告書について	令和元年7月29日
4	令和2年度使用教科書図書の採択について	
5	教育長の任命について	令和元年8月28日
6	教育委員会の委員の任命について	
7	東員町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について	
8	東員町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の保育料に関する条例の一部を改正する条例について	
9	東員町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	
10	東員町立保育所設置条例施行規則の一部を改正する規則について	
11	東員町子ども・子育て支援施行細則の一部を改正する規則について	
12	東員町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の保育料に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	
13	令和元年度東員町教育予算（一般会計補正予算第3号）について	
14	東員町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	
15	東員町保育所の利用の手続に関する規則の一部を改正する規則について	
16	東員町保育所、認定子ども園及び家庭的保育事業等の利用調整に関する基準要綱の一部を改正する要綱について	
17	東員町就学援助実施要綱の一部を改正する要綱について	
18	東員町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	令和元年10月29日
19	東員町通級指導教室実施要綱の制定について	
20	令和元年度東員町教育予算（一般会計補正予算第5号）について	令和元年11月27日
21	就学援助について	令和元年12月23日
22	東員町立学校職員安全衛生管理規程及び東員町立保育所勤務職員の勤務時間に関する規程の一部改正について	令和2年1月28日
23	令和2年度東員町教育基本方針（案）について	令和2年2月21日
24	令和元年度東員町教育予算（一般会計補正予算第8号）について	
25	令和2年度東員町教育予算（一般会計当初予算）について	
26	令和元年度末教職員人事異動について	令和2年2月28日
27	東員町立学校における教育職員の在校等時間の上限等に関する規則の制定について	令和2年3月30日
28	東員町外国語指導助手任用規則の一部を改正する規則の制定について	

2 教育委員会の審議内容（報告）

番号	件名	提出年月日
1	平成30年度中学校卒業生進路状況報告について	平成31年4月23日
2	平成31年度教育委員会事業概要について	
3	令和元年6月定例議会の報告について	令和元年6月21日
4	みえスタディチェック及び、全国学調自校採点の結果報告について	
5	東員第一中学校移転事業経過報告	令和元年7月29日
6	図書館休館及び貸出期間の延長について	令和元年8月28日
7	平成31年度全国学力学習状況調査の結果について	
8	豪雨災害の被災状況（9月5日）について	令和元年9月26日
9	令和元年9月定例議会の報告について	
10	平成31年度全国学力学習状況調査の町独自分析について	
11	議案第19号「東員町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例」について（訂正）	
12	令和元年度東員町一般会計補正予算（第4号）について	令和元年10月29日
13	東員第一中学校移転事業の経過報告について	
14	陸上競技場の改修及び指定管理者の指定について	
15	町民プールの現状について	
16	第52回東員町文化祭について	令和元年11月27日
17	平成30年度問題行動等調査結果の報告について	
18	東員第一中学校移転整備プロジェクトチームの設置について	
19	陸上競技場の改修及び指定管理者の指定について	
20	町民プールについて	令和元年12月23日
21	令和元年12月定例議会の報告について	
22	年末年始の図書の貸付期間延長について	
23	令和2年度小中学校教職員人事異動基本方針について	令和2年1月28日
24	子育ての手引き版（中学生用）について	
25	令和元年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果について	令和2年3月30日
26	令和2年3月定例議会の報告について	
27	令和元年度総合学力調査（3学期版）の結果について	
28	臨時休業中における学校での児童生徒の「緊急受け入れ」について	

3 教育委員会の審議内容（後援）

番号	件名	提出年月日
1	「家庭教育講演会」に後援について	平成31年4月23日
2	「とどけ心にV 合同コンサート」の後援について	
3	「第10回はたらく人にありがとう メッセージ募集」の後援について	
4	「第48回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会三重大会」の後援について	令和元年5月20日
5	「第71回全国人権・同和教育研究大会」の後援について	
6	「馬ふれあい&乗馬教室」の後援について	
7	「北勢線夏休み親子ツアーズ」の後援について	
8	「第31回寿野球大会」の後援について	令和元年6月21日
9	「教育セミナー 7ヶ国語で話そう」の後援について	
10	「夏休み小学生じばさん講座」の後援について	
11	「夏のエコフェア2019」の後援について	
12	「第15回AMF2019」の後援について	
13	「いなべファミリー税金クイズ大会」の後援について	
14	「第29回子供税金クイズ大会」の後援について	令和元年7月29日
15	「モラロジー生涯学習セミナー」の後援について	
16	「四日市友の会 家事家計講習会」の後援について	
17	「不登校は不幸じゃない2019」の後援について	
18	「秀真の森コンサート」の後援について	
19	「第34回全国保育所給食セミナー」の後援について	
20	「第11回岡田水彩画グループ合同展」の後援について	
21	「第4回公募学生書道展」の後援について	
22	「おいしいデコレーションと素敵なおつまみ展」の後援について	令和元年8月28日
23	「ライツ2019共に生きる明日をつくるつどい」の後援について	
24	「稲部小学校 学びの共同体 公開授業研究会」の後援について	
25	「桑名弦楽合奏団 地域巡回コンサート2019」の後援について	
26	「今井俊輔バリトンコンサート」の後援について	令和元年9月26日
27	「笹尾西小学校 学びの共同体 公開授業研究会」の後援について	
28	「第20回ひばりおはなし会」の後援について	
29	「第7回コスモサロンコンサート」の後援について	
30	「みんなの学校上映会&木村泰子先生講演会 in 桑名」の後援について	
31	「サウンドフォレストコンサート」の後援について	
32	「親と子のせいかつ教室」の後援について	令和元年10月29日
33	「女声合唱団くわな市民コーラス第26回演奏会」の後援について	
34	「第27回おんがく会」の後援について	令和元年11月27日
35	「三重県立いなべ総合学園高等学校吹奏楽部第14回定期演奏会」の後援について	
36	「令和元年度員弁郡・いなべ市障がい者を守る会 企画映画会」の後援について	令和元年12月23日
37	「みえけん絵本と人形劇フェスティバル いなべ会場」の後援について	
38	「第39回フラワーコーラス演奏会」の後援について	令和2年1月28日
39	「第27回春の文協まつり」の後援について	
40	「混声合唱団カンタービレくわな第11回定期演奏会」の後援について	
41	「Dance studio a☆mieux 8th EXHIBITION DANCE」の後援について	
42	「Dance studio a☆mieux 8th EXHIBITION Ballet」の後援について	令和2年2月21日
43	「第57回道徳教育研究会」の後援について	
44	「一木幹男とギターデュオ・アイリス ふれあいギターLIVEコンサート」の後援について	
45	「特別支援教育講演会」の後援について	令和2年3月30日
46	「第23回三重県障がい者スポーツ大会 フライングディスク」の後援について	
47	「第39回とういん寄席」の後援について	
48	「劇団四季ファミリーミュージカル 人間になりたがった猫」の後援について	

4 令和元年度 児童・生徒・園児数、学級数

()は特別支援学級：外数 ※学級数は実学級数 令和元年5月1日現在

小学校	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三和	(0) 27	1	(0) 25	1	(1) 26	1	(0) 26	1	(0) 32	1	(2) 28	1	(3) 164	(2) 6
稲部	(2) 43	2	(4) 27	1	(1) 43	2	(1) 30	1	(0) 29	1	(3) 41	2	(11) 213	(3) 9
神田	(3) 81	3	(4) 79	3	(3) 76	2	(4) 76	2	(3) 89	3	(5) 78	2	(22) 479	(4) 15
笹尾西	(0) 22	1	(1) 29	1	(1) 38	1	(0) 23	1	(1) 43	2	(1) 19	1	(4) 174	(1) 7
笹尾東	(2) 44	2	(2) 37	2	(2) 29	1	(3) 33	1	(1) 42	2	(1) 30	1	(11) 215	(2) 9
城山	(2) 26	1	(4) 21	1	(2) 26	1	(1) 31	1	(3) 25	1	(1) 23	1	(13) 152	(2) 6
合計	(9) 243	10	(15) 218	9	(10) 238	8	(9) 219	7	(8) 260	10	(13) 219	8	(64) 1397	(14) 52

中学校	1年		2年		3年		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
東員第一	(3) 131	4	(3) 134	4	(3) 125	4	(9) 390	(2) 12
東員第二	(3) 84	3	(2) 94	3	(4) 88	3	(9) 266	(2) 9
合計	(6) 215	7	(5) 228	7	(7) 213	7	(18) 656	(4) 21

幼稚園	3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三和	11	1	10	1	15	1	36	3
稲部	23	1	16	1	20	1	59	3
神田	38	2	45	2	36	2	119	6
笹尾西	17	1	15	1	16	1	48	3
笹尾東	9	1	22	1	12	1	43	3
城山	7	1	15	1	12	1	34	3
合計	105	7	123	7	111	7	339	21

保育園	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	園児数	学級数												
みなみ	2	1	12	3	16	3	6	1	9	1	12	1	57	10
いなべ	2	1	10	3	16	3	27	2	16	1	17	1	88	11
東員	1	1	11	3	14	3	40	3	42	3	40	3	148	16
笹尾第一	1	1	11	3	13	3	17	1	15	1	16	1	73	10
笹尾第二	3	1	8	2	17	3	22	2	17	1	17	1	84	10
城山	1	1	15	4	18	3	13	1	13	1	12	1	72	11
合計	10	6	67	18	94	18	125	10	112	8	114	8	522	68

5 児童、生徒数の推移

令和元年5月1日現在

小学校	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
三和	205	205	199	186	195	184	182	173	174	167	164	151	141	134	125	118
稲部	198	216	218	220	236	226	214	209	218	224	215	222	239	236	249	241
神田	397	380	412	397	412	454	463	441	477	501	501	499	511	523	519	528
笹尾西	179	182	203	189	173	179	176	169	183	178	194	181	195	180	183	173
笹尾東	264	258	261	235	223	218	206	202	208	226	226	224	225	224	206	189
城山	206	199	189	176	173	172	175	170	166	165	166	164	154	154	158	157
合計	1,449	1,440	1,482	1,403	1,412	1,433	1,416	1,364	1,364	1,461	1,466	1,441	1,465	1,451	1,440	1,406

R2以降は推計

中学校	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
東員第一	362	380	409	408	397	380	382	370	398	399	426	445	449	446	424	442
東員第二	293	298	326	318	332	328	317	315	287	275	256	277	283	307	288	294
合計	655	678	735	726	729	708	699	685	685	674	682	722	732	753	712	736

R2以降は推計

6 令和元年度 教職員数

小学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援等職員	用務員	計	
三和	1	1	9	5	1	0	0	1	18	3	2	1	6	24
稲部	1	1	12	6	1	1	1	1	24	1	4	1	6	30
神田	1	1	21.5	6	1	0	0	1	31.5	3	8	1	12	43.5
笹尾西	1	1	10	3	1	0	0	1	17	2	3	1	6	23
笹尾東	1	1	11	5	1	0	0	1	20	1	4	1	6	26
城山	1	1	9	6	1	0	0	1	19	3	4	1	8	27
合計	6	6	72.5	31	6	1	1	6	129.5	13	25	6	44	173.5

中学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援等職員	用務員	計	
東員第一	1	1	18	7	1	0	0	1	29	4	3	1	8	37
東員第二	1	1	17	3	1	1	0	1	25	4	3	1	8	33
合計	2	2	35	10	2	1	0	2	54	8	6	2	16	70

※1 数値は、学級数及び教職員定数（国・県費・町費）、講師等配置確認表から取得

※2 再任用は教諭数に含む。

※3 講師は非常勤職員の合計数（初任研・町単教員非常勤は除く。）

※4 用務員には委託職員も含む。

※5 非常勤講師のうち14名は県費非常勤と兼務。

※6 用務員にはシルバー人材センターも含む。

幼稚園	園長	副園長	教諭		計
			正規	臨時	
三和	1	(1)	4	0	5
稲部	1	(1)	3	0	4
神田	1	(2)	6	0	7
笹尾西	1	1	3	0	5
笹尾東	1	1	4	0	6
城山	1	1	3	0	5
合計	6	3(4)	23	0	32

保育園	園長	副園長	保育士		調理員	計
			正規	臨時		
みなみ	(1)	1	2	7	1	11
いなべ	(1)	1	6	8	1	16
東員	(1)	2	6	7	2	17
笹尾第一	(1)	(1)	4	5	1	10
笹尾第二	(1)	(1)	5	4	1	10
しろやま	(1)	(1)	4	6	1	11
合計	(6)	4(3)	27	37	7	75

7 学校教育施設の状況

小学校	学級数		保有教室数		校舎		屋内運動場		校地面積 (㎡)
	普通	特支	普通	特別	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	建築年	
三和	6	2	13	8	3,030	S50	801	S54	20,011
稲部	9	3	9	9	2,917	S45	802	S56	17,471
神田	15	4	15	8	3,231	S48	790	S51	16,717
笹尾西	7	1	15	10	3,918	S53	725	S53	20,483
笹尾東	9	2	18	10	4,470	S57	1,095	S58	18,498
城山	6	2	15	8	5,473	S63	983	S63	22,128

中学校	学級数		保有教室数		校舎		屋内運動場		校地面積 (㎡)
	普通	特支	普通	特別	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	建築年	
東員第一	12	2	16	16	6,135	S41	1,536	S54	32,919
東員第二	9	2	27	17	7,514	S58	1,394	S58	28,887

幼稚園 保育園	学級数	教室数	園舎		校地面積 (㎡)
			面積(㎡)	建築年	
三和	3	3	1,573	H14	8,684
みなみ	10	6			
稲部	3	4	1,100	H17	4,536
いなべ	11	6			
神田	6	6	2,068	H11	7,886
東員	16	6			
笹尾西	3	3	1,076	S56	8,156
笹尾第一	10	5			
笹尾東	3	4	1,178	H20	4,016
笹尾第二	10	6			
城山	3	3	962	H2	6,842
しろやま	11	5			

8 学校教育施設一覧

施設名	郵便番号	住所	電話番号	備考
三和幼稚園	511-0255	東員町大字長深690番地	0594-76-5319	
みなみ保育園		東員町大字長深661番地	0594-76-2193	
稲部幼稚園	511-0244	東員町大字大木1075番地	0594-76-5318	
いなべ保育園				
神田幼稚園	511-0242	東員町大字六把野新田111番地	0594-76-5317	
東員保育園				
笹尾西幼稚園	511-0231	東員町笹尾西2丁目31番1	0594-76-6681	
笹尾第一保育園				
笹尾東幼稚園	511-0232	東員町笹尾東4丁目28番	0594-76-3150	
笹尾第二保育園				
城山幼稚園	511-0233	東員町城山1丁目44番	0594-76-4433	
しろやま保育園				
三和小学校	511-0255	東員町大字長深700番地	0594-76-2292	
稲部小学校	511-0244	東員町大字大木944番地	0594-76-2004	
神田小学校	511-0242	東員町大字六把野新田100番地	0594-76-2305	
笹尾西小学校	511-0231	東員町笹尾西2丁目1番1	0594-76-2847	
笹尾東小学校	511-0232	東員町笹尾東4丁目28番	0594-76-6521	
城山小学校	511-0233	東員町城山1丁目48番	0594-76-9046	
東員第一中学校	511-0242	東員町大字六把野新田557番地	0594-76-2303	
東員第二中学校	511-0233	東員町城山2丁目1番	0594-76-5152	
東員町学校給食センター	511-0241	東員町大字鳥取1652番地1	0594-86-2200	
東員町子育て支援センター	511-0255	東員町大字長深661番地	0594-76-1266	H30年度より子ども家庭課所管
とういんファミリーサポートセンター	511-0255	東員町大字長深661番地	0594-76-2123	H30年度より子ども家庭課所管

9 社会教育施設一覧

施設名	住所	電話番号	施設概要
東員町総合文化センター	511-0251 東員町大字山田1700番地	0594-86-2816	ホール 702席、図書館 106,426冊、駐車場 265台
笹尾コミュニティセンター	511-0232 東員町笹尾東2丁目5番3	0594-76-8233	多目的ホール、研修室（和室）、2階会議室（1・2・3）、調理室、2階研修室、2階南会議室（笹尾連絡所2階）
東員町郷土資料館	511-0233 東員町城山1丁目48番	—	展示数 98点
東員町武道館	511-0251 東員町大字山田1600番地	—	柔道場、剣道場
東員町中央球場	511-0257 東員町大字北大社450番地	—	両翼 91m、センター 120m、照明 6基96灯
城山球場	511-0233 東員町城山3丁目4番1	—	両翼 80m、センター 100m
東員町中央テニスコート	511-0257 東員町大字北大社450番地	—	3面（セミアンツーカー）
城山テニスコート	511-0232 東員町城山1丁目47番1	—	6面（ハードコート2面、オムニコート4面）
東員町総合体育館	511-0251 東員町大字山田1600番地	0594-86-2819	アリーナ、卓球室、トレーニングルーム、観客室582席 会議室、更衣室、ミキサー室
東員町民プール	511-0257 東員町大字北大社428番地6	0594-76-7463	50mプール、流水プール、幼児用プール
東員町スポーツ公園 陸上競技場	511-0257 東員町大字北大社323番地	0594-76-0481	全天候ウレタン舗装400mトラック、インフィールド（高麗芝）74m ×105m、固定席1,954席、サブスタンド（芝）4,000人
城山多目的グラウンド	511-0233 東員町城山3丁目4番1	—	サッカーコート58m×90m、照明3基9灯
長深グラウンド	511-0255 東員町大字長深3583番地	—	多目的グラウンド 11,759㎡

10 指定文化財一覧

指定	種別	番号	名称	所在地	指定年月日	概要
県指定	有形	美術 工芸品	1 絹本着色景川和尚像	東員町大字長深2525番地	昭和27年3月13日	明応9年（1500年）仲春に描かれ伝統的な頂相作家の筆と思われる。縦105cm、横54cm。景川和尚（1425～1500）は臨済宗の高僧である。
		美術 工芸品	2 木造薬師如来坐像	東員町大字穴太731番地	昭和32年10月10日	貞観年間（870年頃）の名工作。蓮華座上に結伽跏座した高さ約90cmの一木造りの仏像。左手に薬つぼを持ち右手は施無畏の印を結ぶ。
	無形	無形 民俗	1 猪名部神社上げ馬神事	東員町大字北大社797番地	平成14年 3月18日	毎年4月の第1土・日曜日に開催される。鎌倉時代、員弁郡司・員弁三郎行綱が若者の士気を鼓舞するために行ったのが始まり。
町指定	記念物	天然 記念物	1 トウインヤエヤマザクラ	東員町城山1丁目18番16	平成 8年 4月17日	八重咲きのヤマザクラで奈良の八重桜に似ている。葉や花柄に毛がなく、めしべが2本あるものもある非常に希少な種。
		天然 記念物	2 山田半ノ木谷イヌナシ	東員町笹尾東1丁目28番5	平成10年 4月 3日	野生ナシの中で最も原始的な種。4月に白い花が咲き、6月には直径1cmの果実を結ぶ希少な種。
		天然 記念物	3 トウインヤエヤマザクラ（第2号）	東員町城山1丁目47番7	平成10年 4月 3日	第1号と同種のヤマザクラ。第1号より花の色が薄く、開花時期も例年1～2週間ぐらい早い。
		天然 記念物	4 観音もみじ	東員町大字瀬古泉993番地	平成24年 3月29日	生育地の古事を有する古木で、主幹が株元から3.9mは横伏しその後は7本立ちとなっている。樹齢約300年とされる。
	無形	無形 民俗	1 六把野獅子舞	東員町大字六把野新田698番地	平成11年10月9日	五穀豊穡、悪魔祓いの祈禱神事として六把野御厨神明社に奉納される。

11 社会教育施設の利用状況

(1) 総合文化センター

(単位：人)

年度	ひばりホール		図書館					展示室
	回数	入館者	入館者	利用者	貸出冊数	利用団体数	団体貸出冊数	
元	133	14,559	93,947	37,037	178,813	28	872	2,931
30	169	18,241	95,995	37,500	180,269	28	981	2,603

年度	楽屋		リハーサル室		第1研修室		第2研修室(和室)	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
元	274	1,878	504	6,120	171	2,346	173	2,200
30	353	2,609	531	5,859	170	2,253	200	3,041

年度	第1講習室		第2講習室		第3講習室		美術工芸室	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
元	239	4,595	221	3,154	113	1,287	190	3,024
30	269	5,875	259	4,069	113	1,579	162	3,028

年度	調理実習室		陶芸室		展示コーナー	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
元	192	3,295	126	1,087	99	2,759
30	153	3,091	138	1,189	113	3,489

(2) 笹尾コミュニティーセンター、郷土資料館 (単位：人)

年度	1階多目的ホール		1階研修室(和室)		2階会議室1・2・3	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
元	662	11,673	54	434	554	5,370
30	731	12,271	34	246	698	6,936

年度	2階調理室		2階研修室		笹尾連絡所2階会議室	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
元	10	91	20	23	122	1,310
30	8	116	1	4	136	1,581

年度	郷土資料館 見学者数
元	89
30	13

(3) 社会体育施設

(単位：人)

年度	総合体育館			武道館	中央テニス	中央球場	城山テニス	城山球場
	アリーナ	トレーニング室	卓球室					
元	31,229	23,423	5,324	15,421	2,095	2,965	16,927	3,625
30	29,458	26,447	5,747	16,567	1,757	3,265	14,907	3,284

年度	城山多目的 グラウンド	笹尾西小ナイター	長深グラウンド	陸上競技場			町民プール
				グラウンド	トレーニング室	多目的 グラウンド	
元	6,545	0	2,347	31,731	45	7,655	24,347
30	5,581	650	2,593	32,910	95	7,255	28,420

年度	学校施設(体育館)							
	神田小	稲部小	三和小	笹尾西小	笹尾東小	城山小	一中	二中
元	7,180	8,759	8,685	6,885	7,897	6,953	7,638	11,177
30	6,897	7,181	7,221	8,704	9,090	7,522	8,021	11,503

1 2 図書館の利用状況

(1) 図書館資料 (単位：冊・点)

区分	R1年度			H30年度		
	一般書	児童書	計	一般書	児童書	計
郷土資料	1,081	—	1,081	1,060	—	1,060
総記	4,082	397	4,479	4,034	404	4,438
哲学・宗教	2,542	281	2,823	2,542	278	2,820
歴史・地理	6,151	931	7,082	6,153	948	7,101
社会	9,330	973	10,303	9,363	995	10,358
自然	4,847	2,050	6,897	4,945	2,062	7,007
工業	6,208	836	7,044	6,281	820	7,101
産業	2,557	535	3,092	2,612	538	3,150
芸術	8,012	1,310	9,322	7,959	1,317	9,276
言語	1,160	315	1,475	1,181	312	1,493
文学	29,808	11,230	41,038	29,353	11,135	40,488
絵本	—	11,052	11,052	—	10,788	10,788
紙芝居	—	738	738	—	721	721
計	75,778	30,648	106,426	75,483	30,318	105,801

雑誌	4,419	4,419	4,443	4,443
ビデオ、DVD	735	735	717	717
カセットテープ	55	55	55	55
CD	41	41	41	41
計	5,250	5,250	5,256	5,256

(2) 図書館利用等各種指数

区 分	R1年度		H30年度	
登録者数 (人)	町内①	22,433	町内①	22,199
	町外	12,947	町外	12,590
	計②	35,380	計②	34,789
貸出冊数 (冊)	個人③	178,813	個人③	180,269
	団体	872	団体	981
	計④	179,685	計④	181,250
町人口 (3月末) ⑤		25,931		25,805
貸出利用者数 ⑥		37,037		37,500
貸出利用団体数 ⑦		28		28
蔵書冊数 ⑧		106,426		105,801
登録率 (町内在住者) ①/⑤ (%)		86.5		86.0
登録者1人あたり貸出冊数 ③/②		5.1		5.2
登録者1人あたり貸出回数 ⑥/②		1.0		1.1
1回当たり貸出冊数 ③/⑥		4.8		4.8
蔵書回転率 ④/⑧ (回)		1.7		1.7
予約件数	窓口	3,447		3,116
	インターネット	1,846		1,634
レファレンスサービス (文献調査含む)		4,593		4,219
蔵書平均単価 (円)		2,006		2,001

(3) 年齢別登録者数 (単位: 人)

区分	R1年度			H30年度		
	男	女	計	男	女	計
0～6歳	125	127	252	131	126	257
7～9歳	298	283	581	278	279	557
10～12歳	337	404	741	337	417	754
13～15歳	363	423	786	386	433	819
児童計	1,123	1,237	2,360	1,132	1,255	2,387
16～18歳	444	479	923	462	505	967
19～22歳	672	726	1,398	685	709	1,394
23～29歳	1,387	1,640	3,027	1,427	1,706	3,133
30～39歳	2,964	4,021	6,985	3,069	4,093	7,162
40～49歳	2,293	4,289	6,582	2,010	4,157	6,167
50～59歳	1,269	3,207	4,476	1,274	3,179	4,453
60～69歳	1,788	3,034	4,822	1,873	2,997	4,870
70歳以上	2,326	2,481	4,807	2,090	2,166	4,256
一般計	13,143	19,877	33,020	12,890	19,512	32,402
合計	14,266	21,114	35,380	14,022	20,767	34,789
構成比 (%)	40.3	59.7	100	40.3	59.7	100

(4) 年齢別個人利用状況 (単位: 冊)

区分	R1年度			H30年度		
	男	女	計	男	女	計
0～6歳	7,563	6,242	13,805	7,155	6,555	13,710
7～9歳	7,337	9,834	17,171	7,187	9,621	16,808
10～12歳	3,979	7,935	11,914	3,985	7,654	11,639
13～15歳	745	1,625	2,370	837	1,357	2,194
児童計	19,624	25,636	45,260	19,164	25,187	44,351
16～18歳	515	421	936	832	661	1,493
19～22歳	616	871	1,487	714	564	1,278
23～29歳	515	2,283	2,798	378	2,743	3,121
30～39歳	3,604	24,788	28,392	4,120	24,385	28,505
40～49歳	6,369	22,302	28,671	5,580	23,017	28,597
50～59歳	3,655	9,953	13,608	3,954	10,995	14,949
60～69歳	10,762	18,377	29,139	12,138	20,144	32,282
70歳以上	17,680	10,842	28,522	17,590	8,064	25,654
一般計	43,716	89,837	133,553	45,306	90,573	135,879
合計	63,340	115,473	178,813	64,470	115,760	180,230
構成比 (%)	35.4	64.6	100	35.8	64.2	100

(5) 相互貸借 (単位: 冊)

区分		R1年度	H30年度
貸出	県内図書館へ	643	603
	県外図書館へ	4	8
	計	647	611
借受	県内図書館から	255	174
	県外図書館から	0	4
	計	255	178

(6) 除籍状況 (単位: 冊)

区分	R1年度	H30年度
リサイクル会等	4,294	4,077
不明図書・雑誌	0	0
紛失・損傷図書	8	15
ビデオ、DVD	5	6
計	4,307	4,098

(7) 図書館行事

行事名	開催日	参加人数 (人)
読み聞かせ会	毎月第2土・第4土	子ども335人、大人286人
不用図書リサイクル会	6月29日、6月30日	688人 (3,258冊)
児童向け人形劇	11月2日 (午前、午後) 2回	子ども78人、大人68人